

調査結果

1 男女平等について

(1) 男女の地位評価

【分析のまとめ】

県調査では「学校のなかで」を除くすべての分野において、『男性の方が優遇されている』が高い状況にあります。年々減少傾向にあります。

国調査と比較すると、「地域のなかで」で男女平等に対する意識の差が見られます。

社会のそれぞれの分野での男女の地位について、平等と感じている人の割合が最も高いのは、「学校のなかで」となっており、県調査では平成12年から平成21年まで4割を超えています。

その他の分野においては、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合が高くなっており、特に「社会通念や風潮で」、「社会全体で」については6～7割程度となっています。また、「政治（政策決定）の場で」についても『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合が高くなっていますが、全体で平成18年から平成21年にかけて7.6ポイント減少しています。

「法律や制度の上で」については、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合が全体で平成12年から平成21年にかけて8.6ポイント減少しています。この分野においては、男女で差がみられ、男性は「平等である」と答えた人の割合の方が高く、平成21年では49.1%となっています。

時系列変化をみると、ほとんどの分野で、徐々に意識の変化がみられるものの、『女性の方が優遇されている』が増えているのではなく、『男性の方が優遇されている』が減少するというかたちで変化していることがうかがえます。

また、国調査と比較すると、「職場のなかで」において、国調査では『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合が時系列で増加しているのに対して、県調査では減少しています。また、平成21年調査の「地域のなかで」において、国調査では「平等」が最も高くなっているのに対して、県調査では『男性の方が優遇されている』が高く、依然として地域において男性が優遇されている状況にあることがうかがえます。

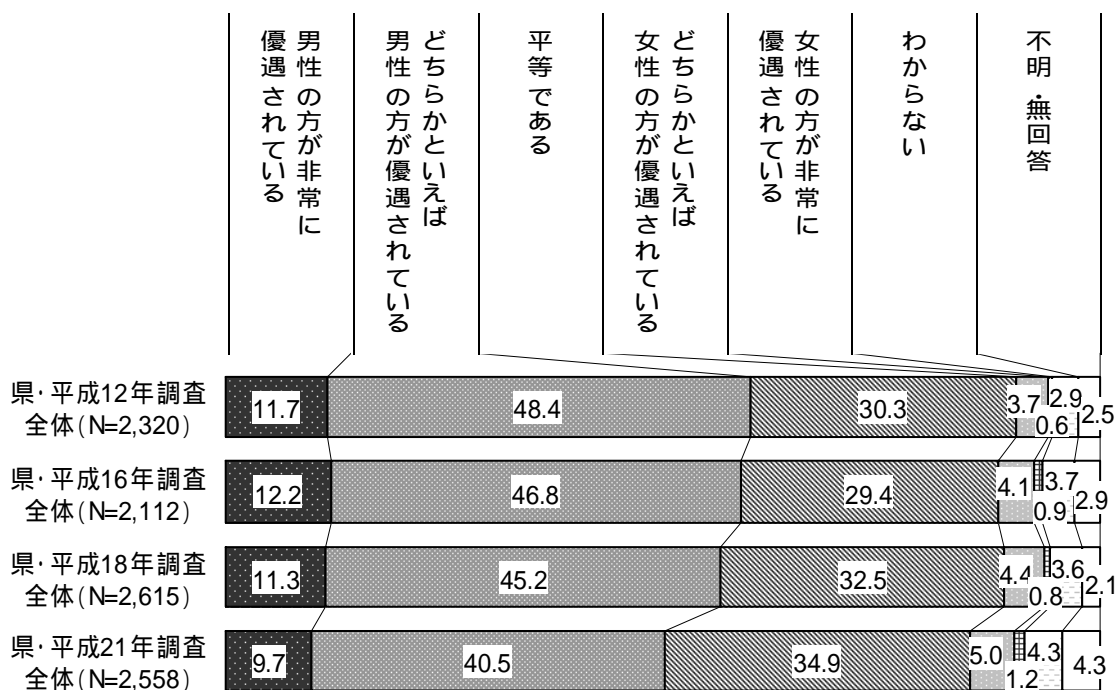
『男性の方が優遇されている』は、本来の選択肢の「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合を合計したものです。『女性の方が優遇されている』は、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

問1. あなたは、次にあげるA～Hの分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。A～Hのそれぞれについて1つずつ選んで 印をつけてください。

- A 家庭のなかで
- B 職場のなかで
- C 学校のなかで
- D 地域のなかで

- E 社会通念や風潮で
- F 法律や制度の上で
- G 政治(政策決定)の場で
- H 社会全体で

問1 男女の地位評価 《A 家庭のなかで》 【全体】

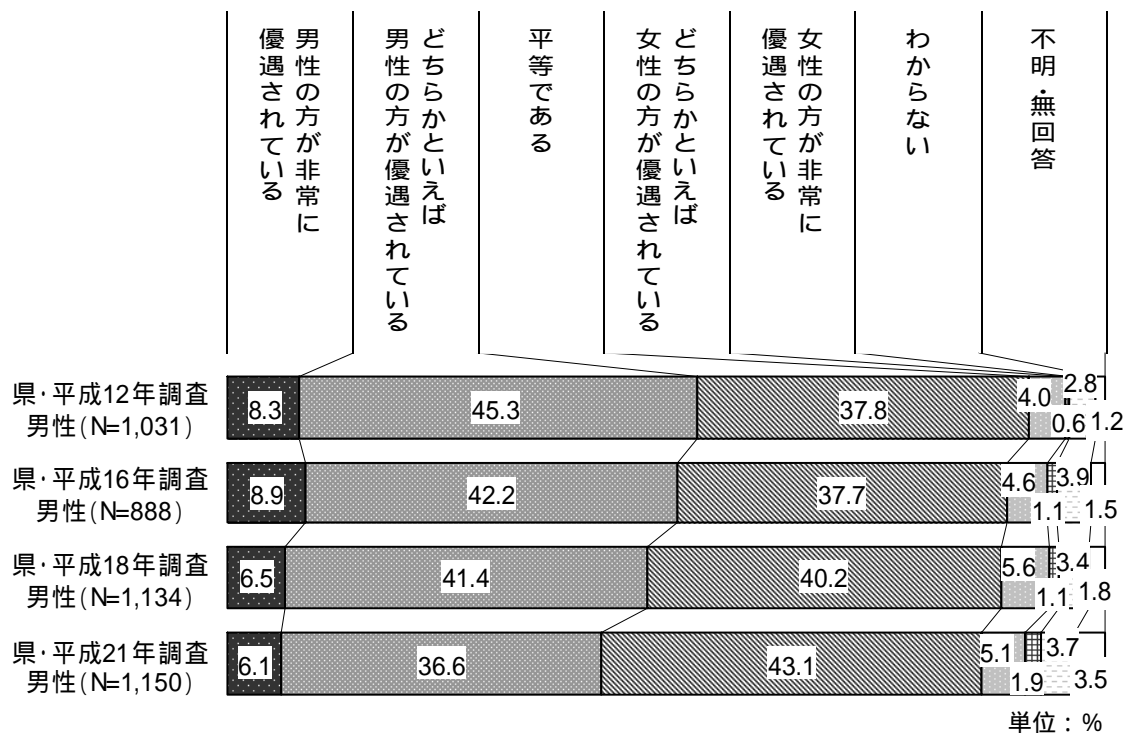


単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しており、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

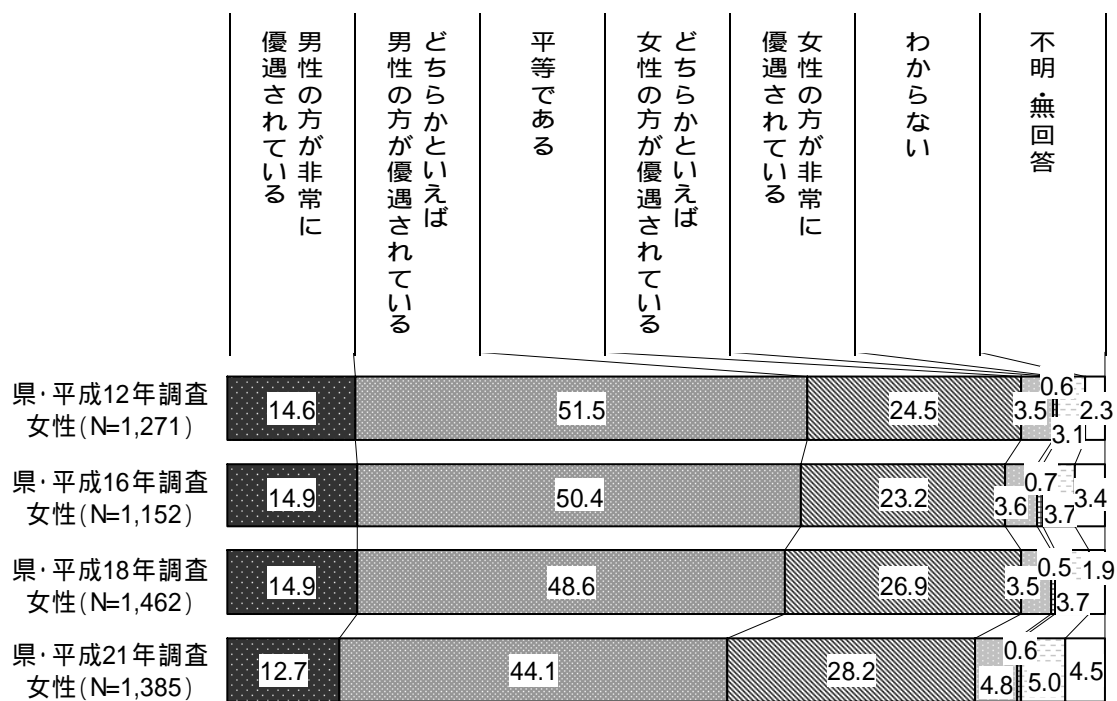
問1 男女の地位評価 《A 家庭のなかで》 【男性】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて増加しており、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

問1 男女の地位評価 《A 家庭のなかで》 【女性】



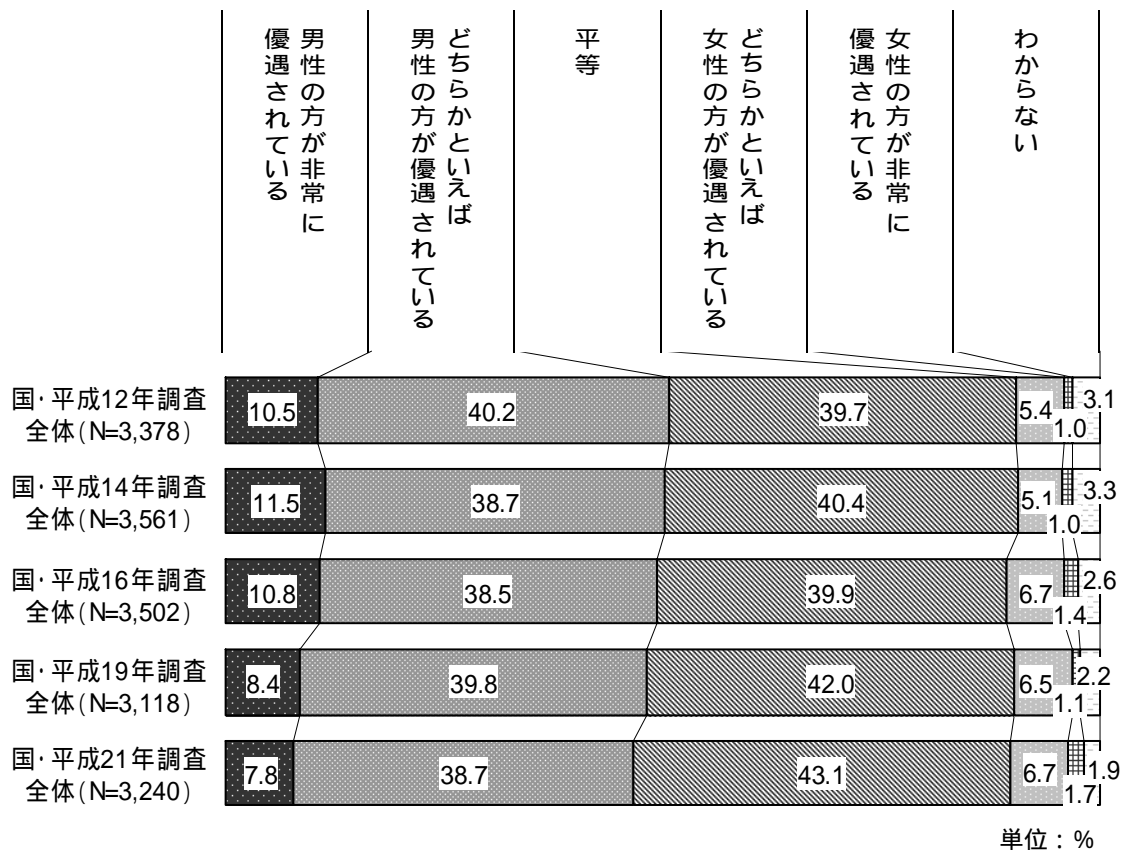
単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて増加しており、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年で減少しましたが、平成21年では増加しています。

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 男女の地位評価 《家庭生活》 【全体】

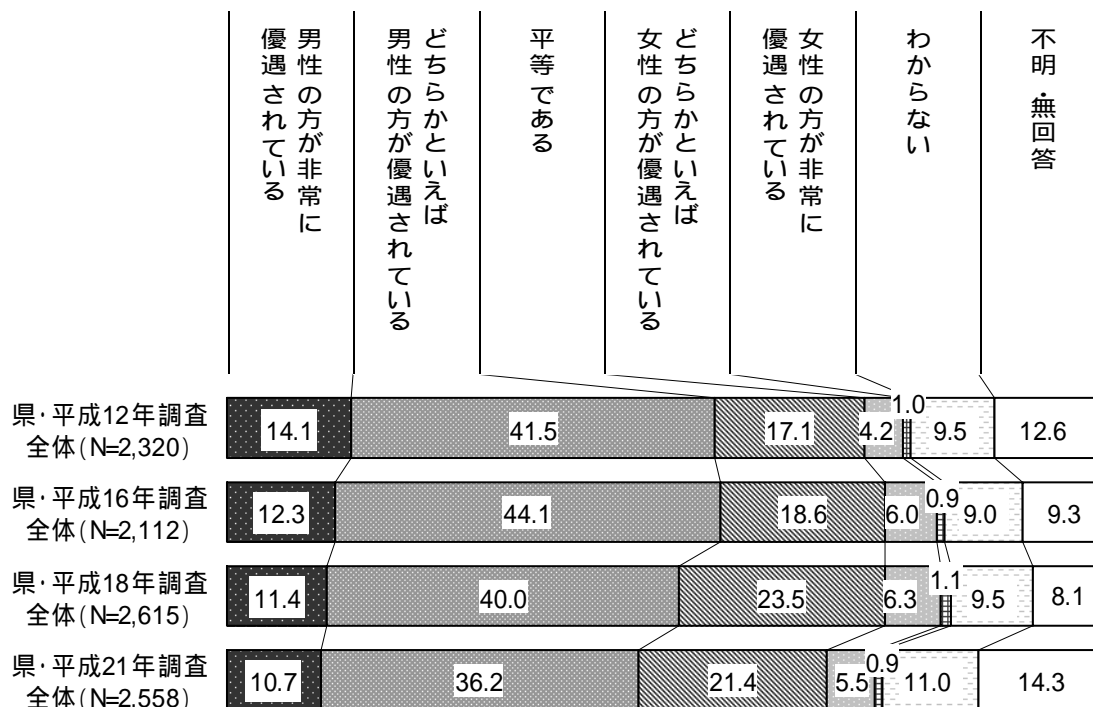


国の平成12年調査、平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査と県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、国・県ともに『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、年々減少しています。

また、「平等」と答えた人の割合は、平成16年以降、国・県ともに増加しています。

『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合を比較すると、国は増減を繰り返しているのに対して、県は平成12年から平成21年にかけて増加しています。

問1 男女の地位評価 《B 職場のなかで》 【全体】

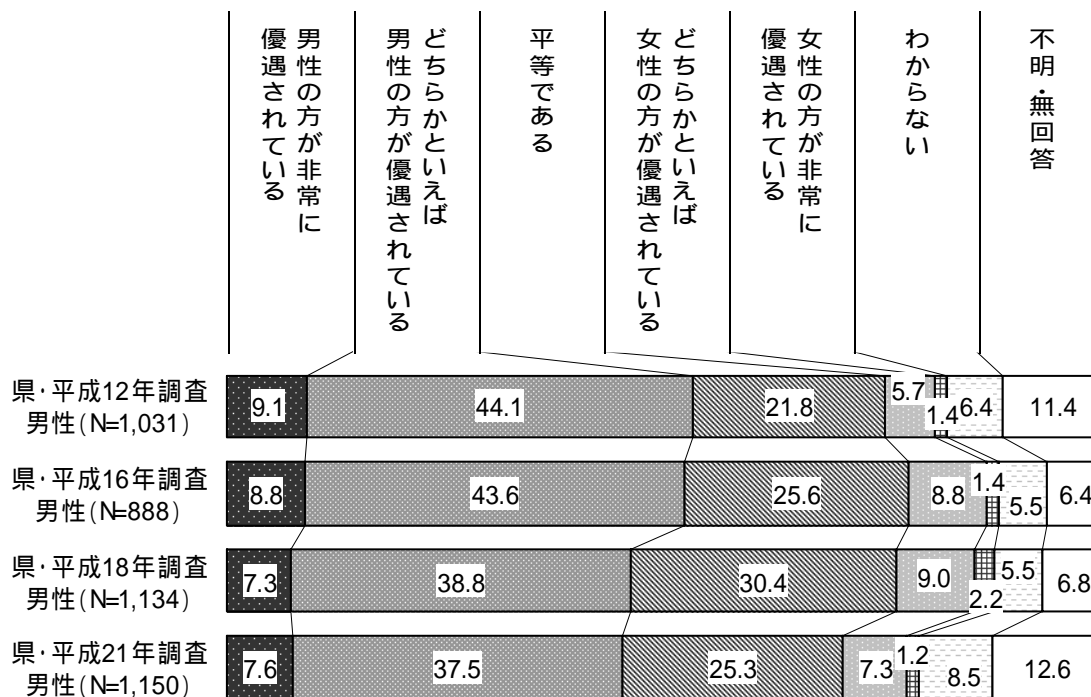


単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけては増加していますが、平成21年では減少しています。

問1 男女の地位評価 《B 職場のなかで》 【男性】

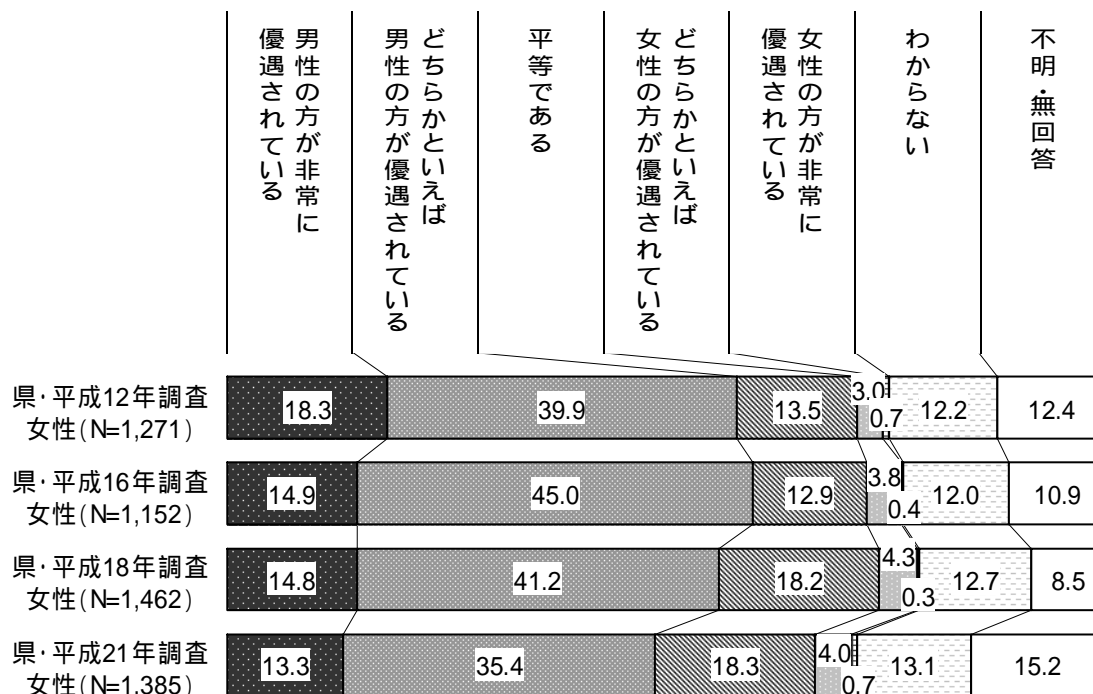


単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけては増加していますが、平成21年では減少しています。

問1 男女の地位評価 《B 職場のなかで》 【女性】



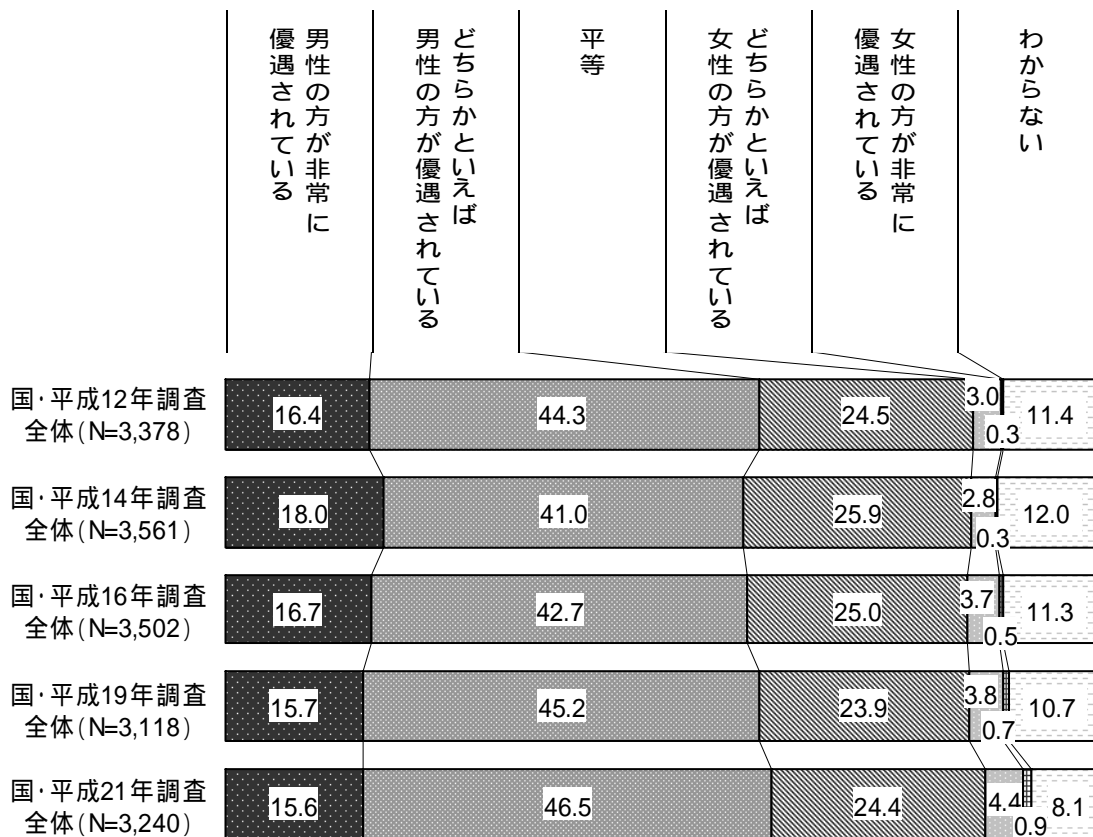
単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しており、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 男女の地位評価 《職場》 【全体】



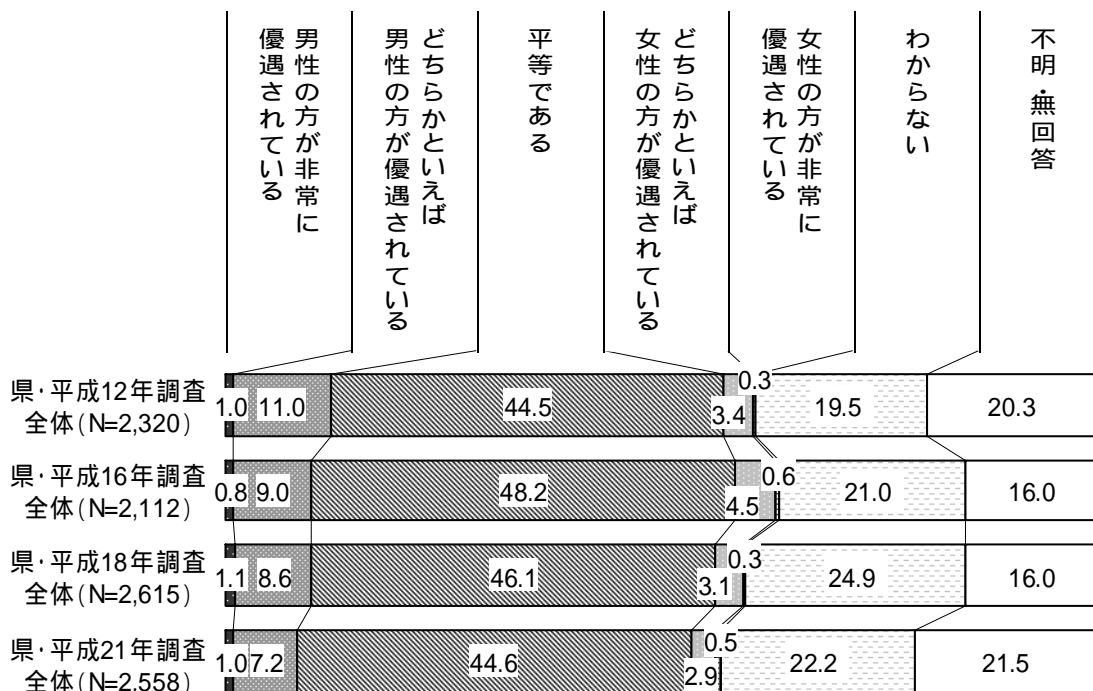
単位：%

国の平成12年調査、平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査と県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合を比較すると、国は平成14年から平成21年にかけて増加しているのに対して、県は平成16年から平成21年にかけて減少しています。

「平等」と答えた人の割合を比較すると、国は増減を繰り返しているのに対して、県は平成12年から平成18年にかけて増加し、平成21年では減少しています。

『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合を比較すると、国は平成14年から平成21年にかけて増加しているのに対して、県は平成12年から平成18年にかけて増加し、平成21年では減少しています。

問1 男女の地位評価 《C 学校のなかで》 【全体】

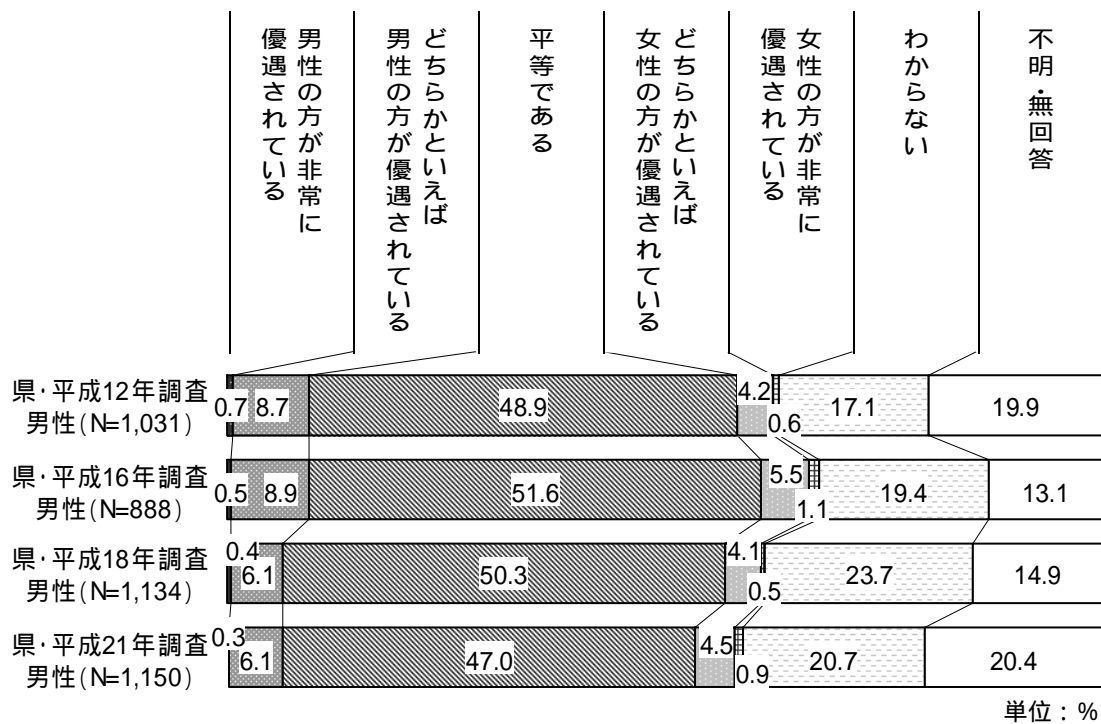


単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

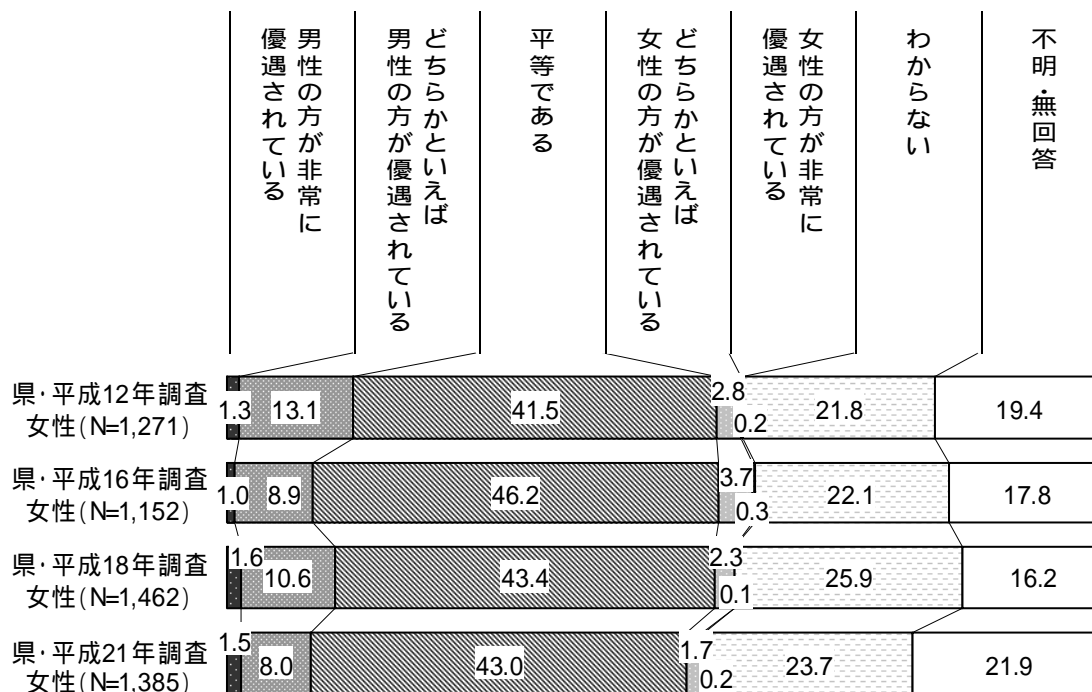
問1 男女の地位評価 《C 学校のなかで》 【男性】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問1 男女の地位評価 《C 学校のなかで》 【女性】



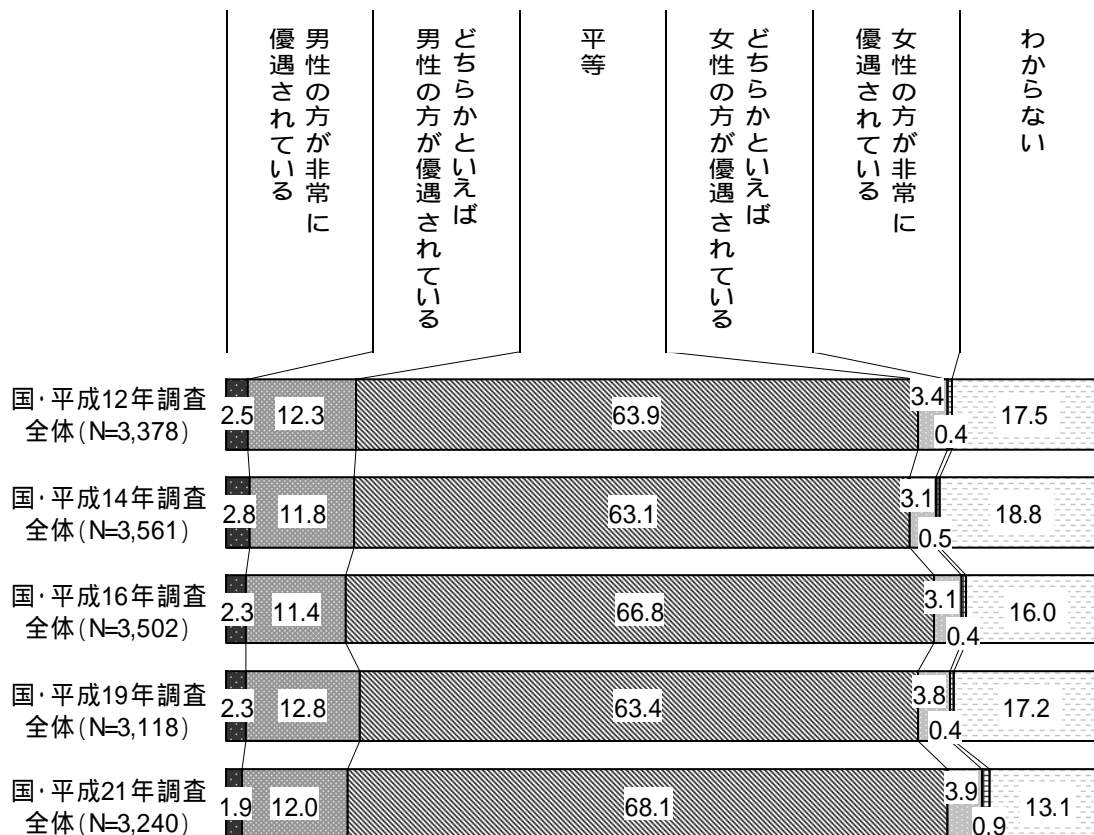
単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 男女の地位評価 《学校教育の場》 【全体】

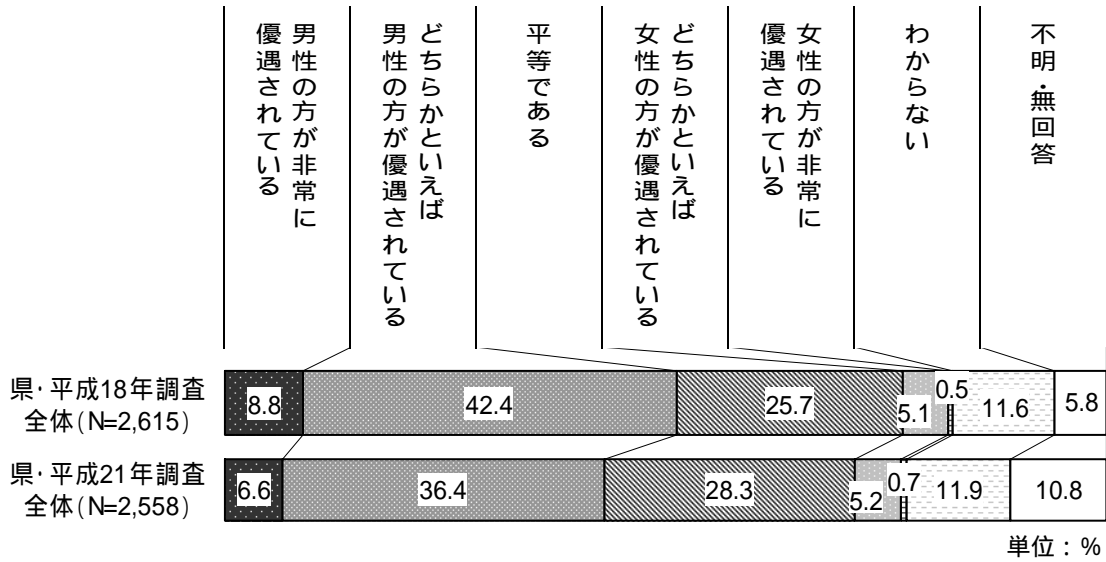


単位：%

国の平成12年調査、平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査と県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合を比較すると、国は平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返しているのに対して、県は平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等」と答えた人の割合を比較すると、国は平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返しているのに対して、県は平成16年から平成21年にかけて減少しています。

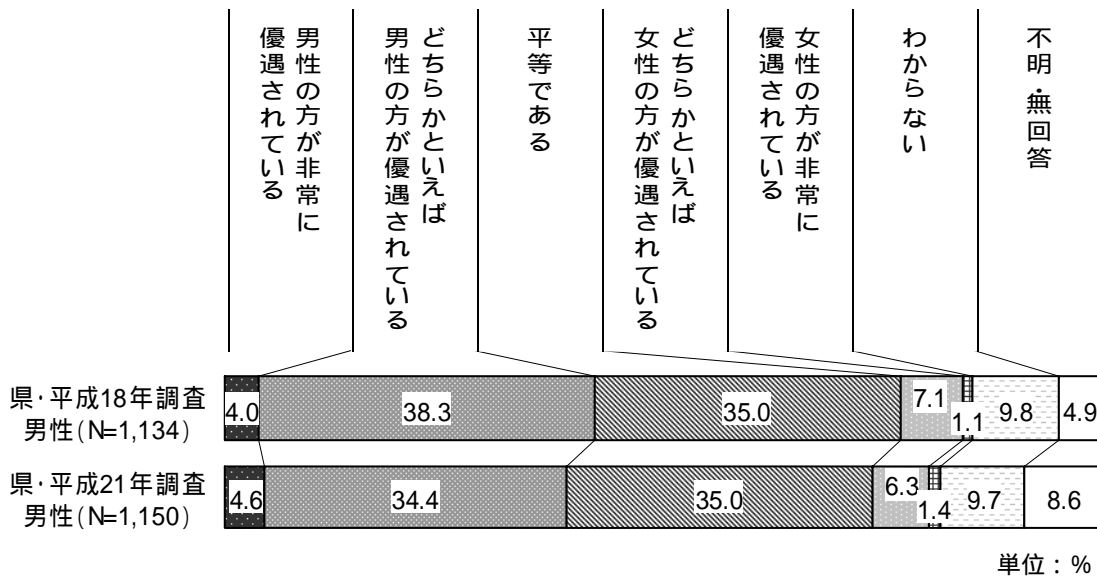
問1 男女の地位評価 《D 地域のなかで》 【全体】



県の平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

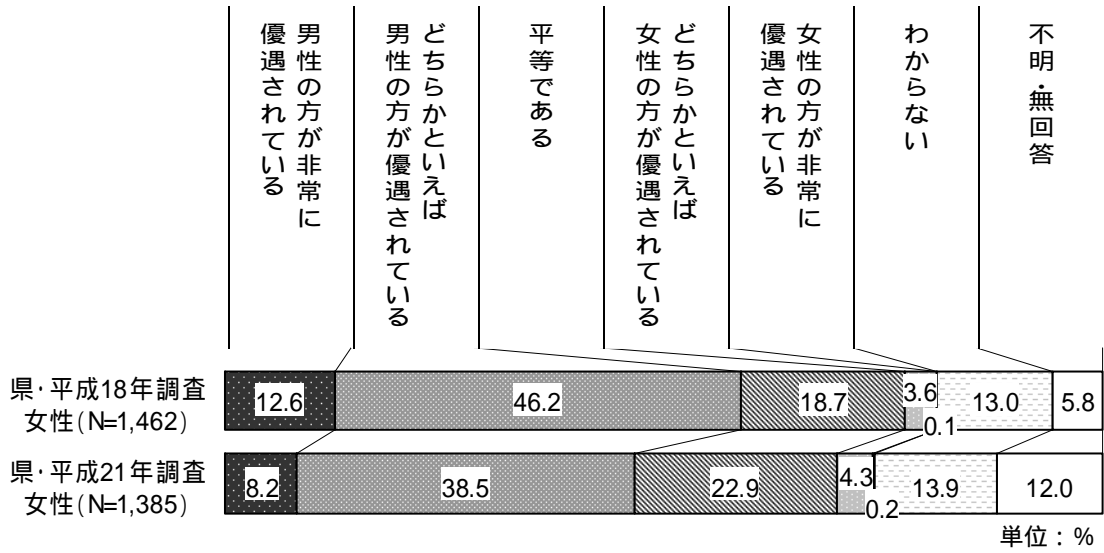
「平等である」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加しています。

問1 男女の地位評価 《D 地域のなかで》 【男性】



県の平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

問1 男女の地位評価 《D 地域のなかで》 【女性】

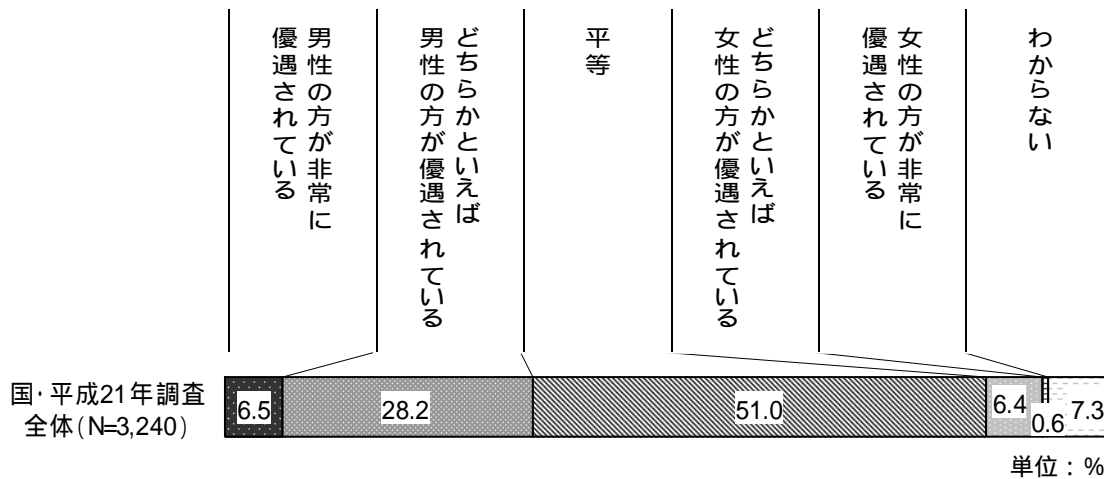


県の平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加しています。

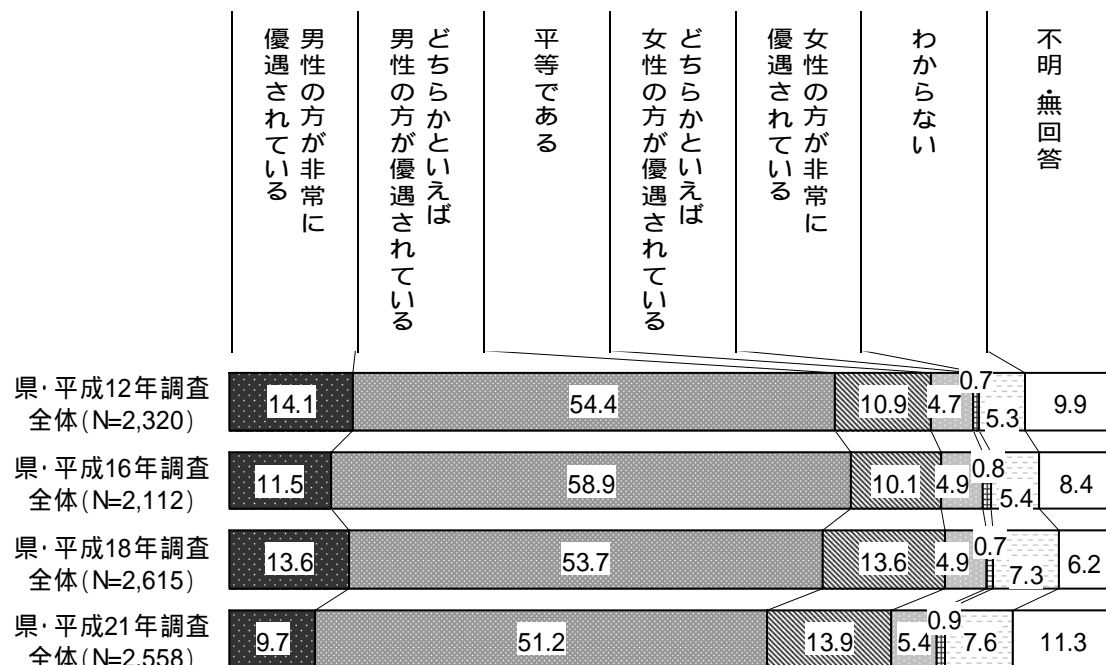
【参考】男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 男女の地位評価 《自治会やNPOなどの地域活動の場》 【全体】



国の平成21年調査と県の平成18年調査、平成21年調査を比較すると、国は「平等」と答えた人の割合が最も高くなっているのに対して、県は平成18年、平成21年ともに『男性の方が優遇されている』が最も高くなっています。

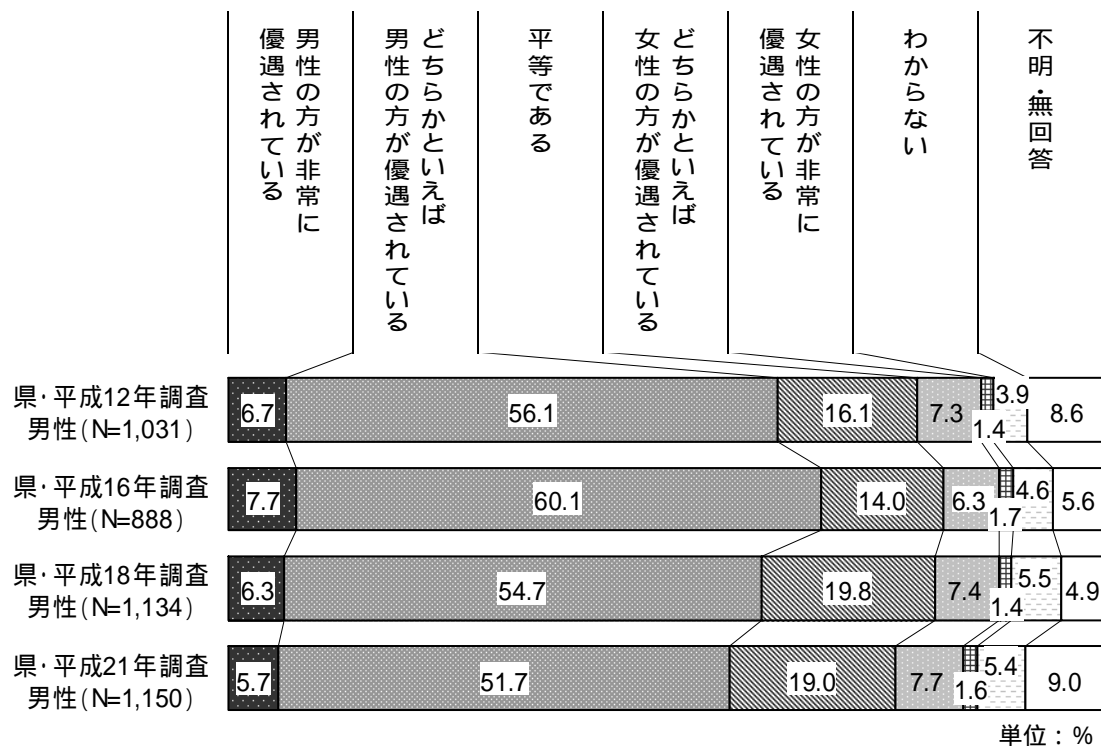
問1 男女の地位評価 《E 社会通念や風潮で》 【全体】



単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。
 「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

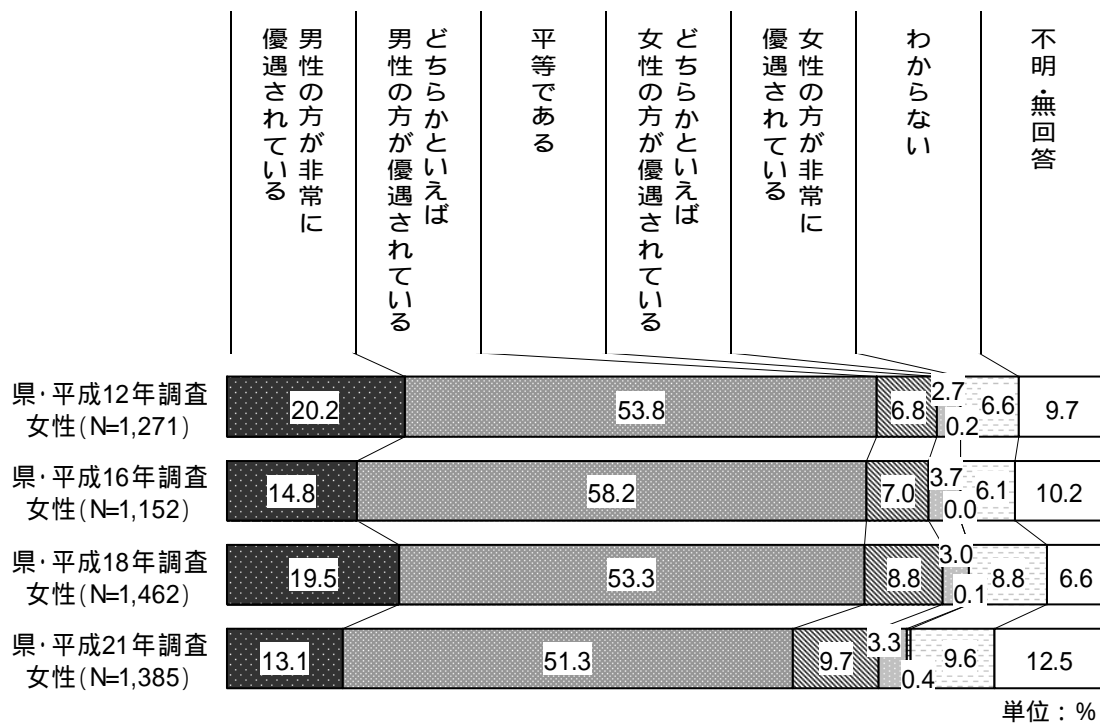
問1 男女の地位評価 《E 社会通念や風潮で》 【男性】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

問1 男女の地位評価 《E 社会通念や風潮で》 【女性】

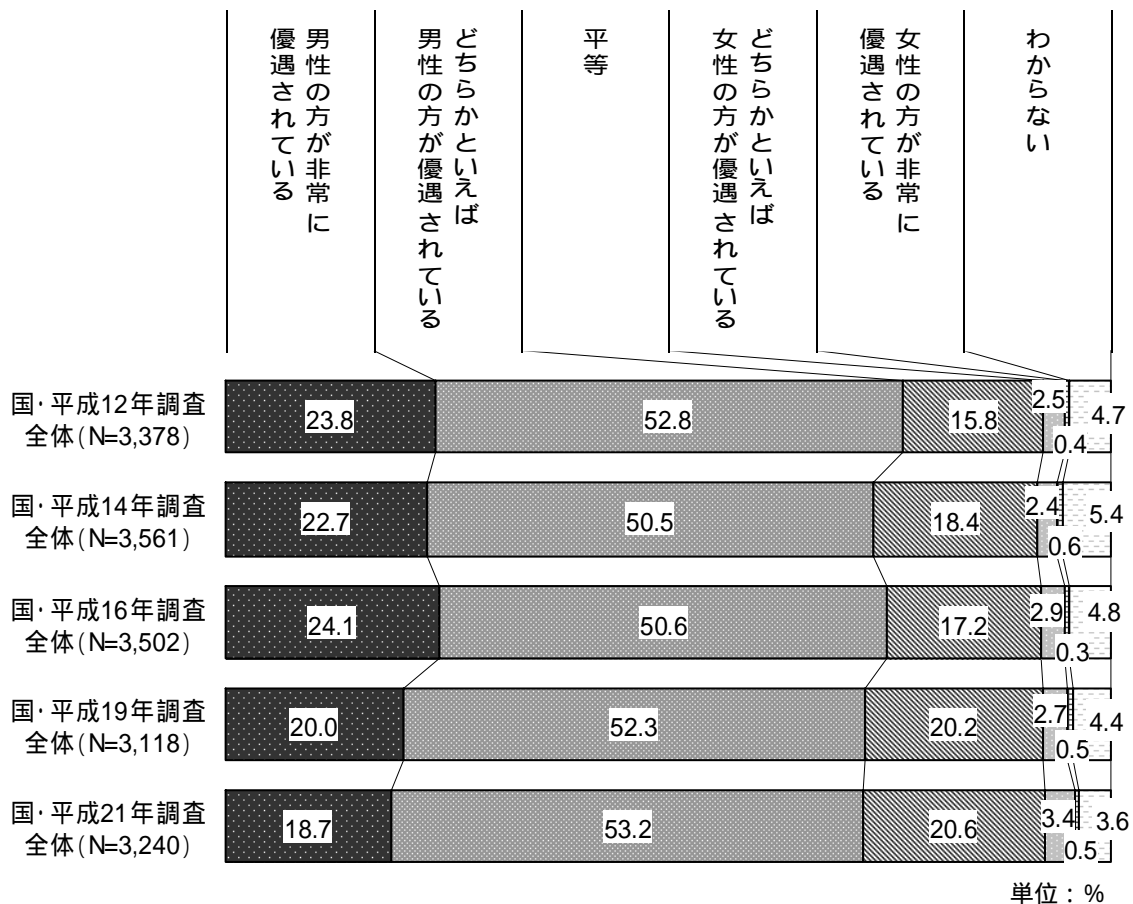


県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

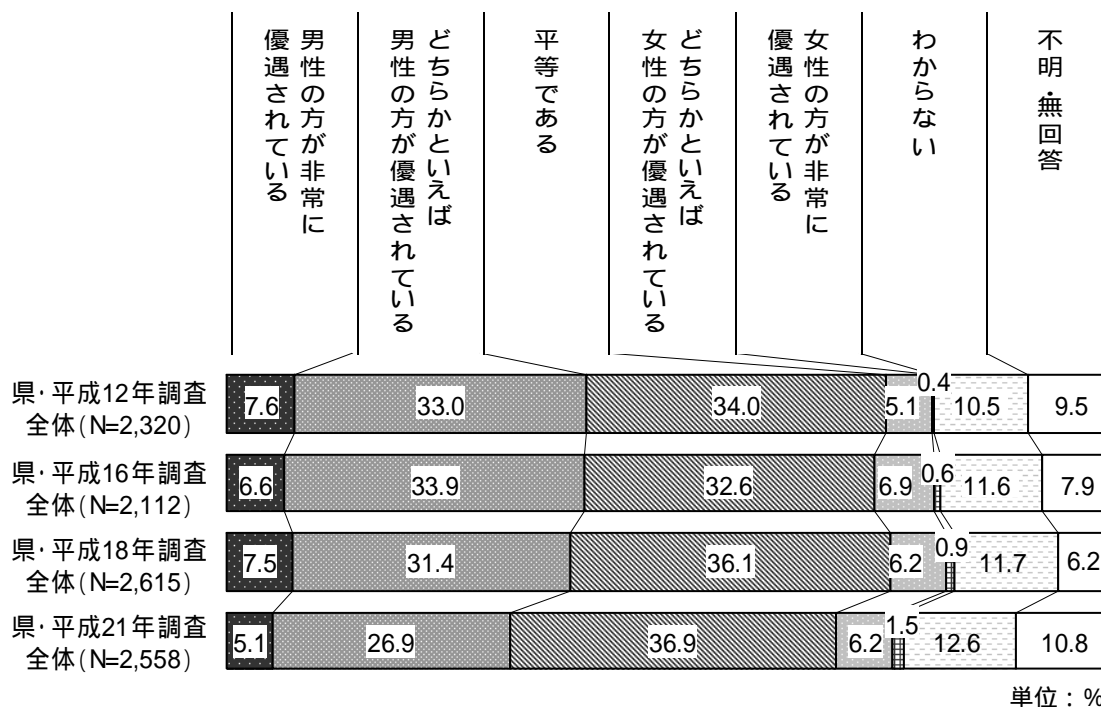
問 男女の地位評価 《社会通念・慣習・しきたりなど》 【全体】



国の平成12年調査、平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査と県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、国・県ともに平成16年から平成21年にかけて『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は減少しています。

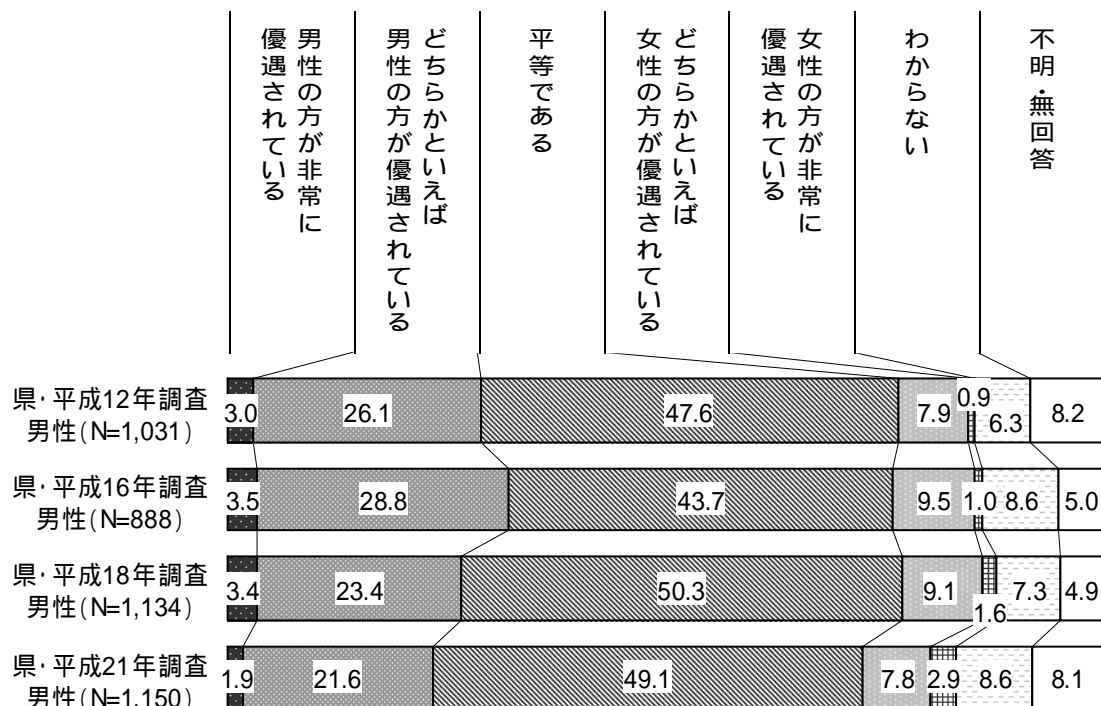
また、「平等」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて、国・県ともに増加しています。

問1 男女の地位評価 《F 法律や制度の上で》 【全体】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。
 「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

問1 男女の地位評価 《F 法律や制度の上で》 【男性】

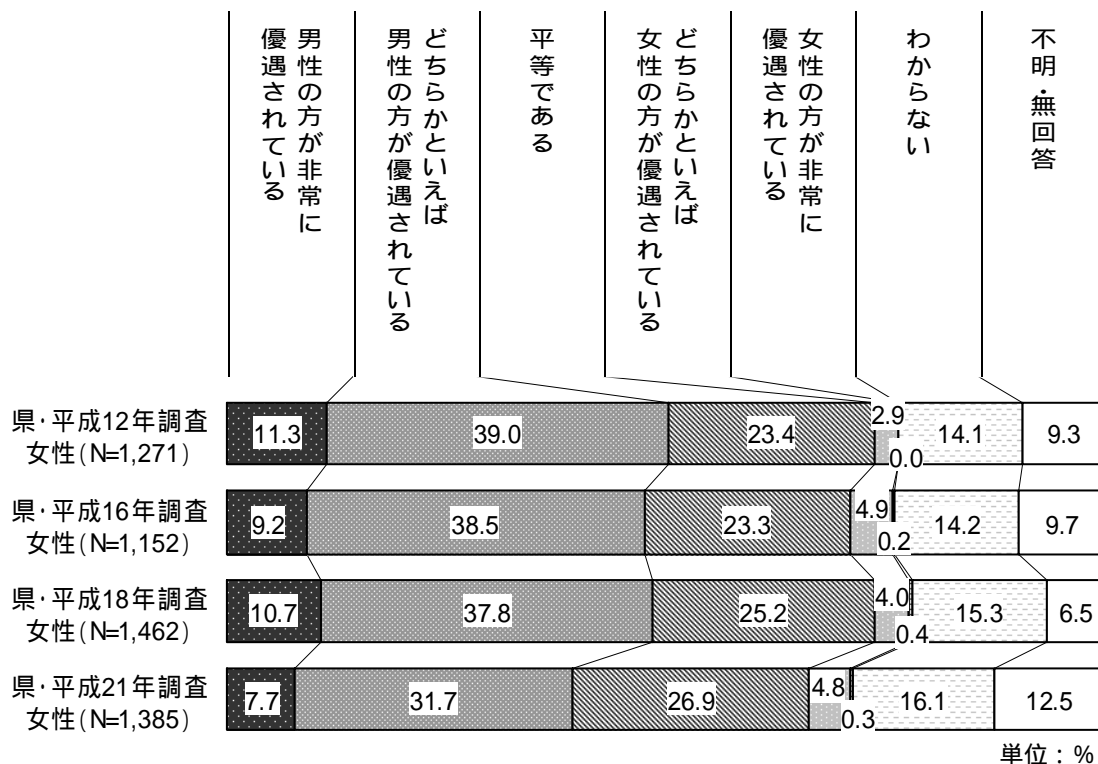


単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

問1 男女の地位評価 《F 法律や制度の上で》 【女性】

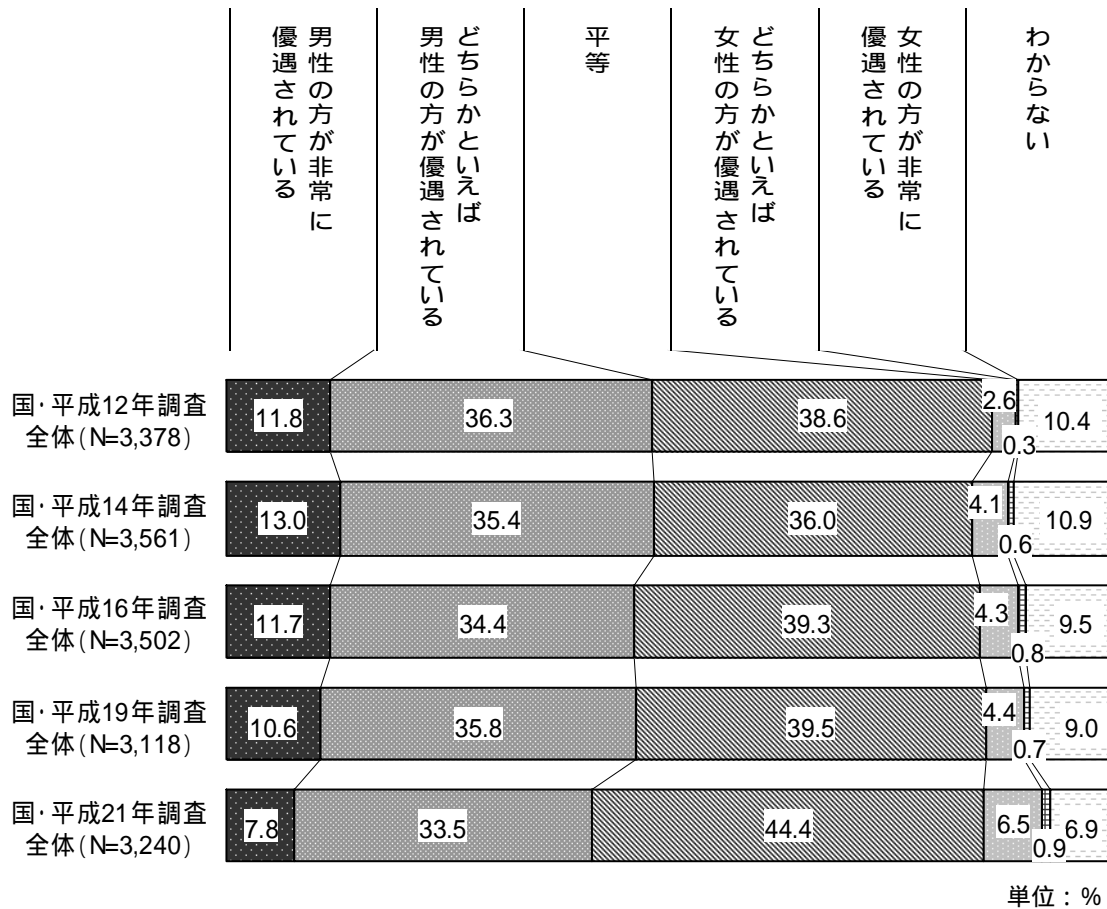


県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

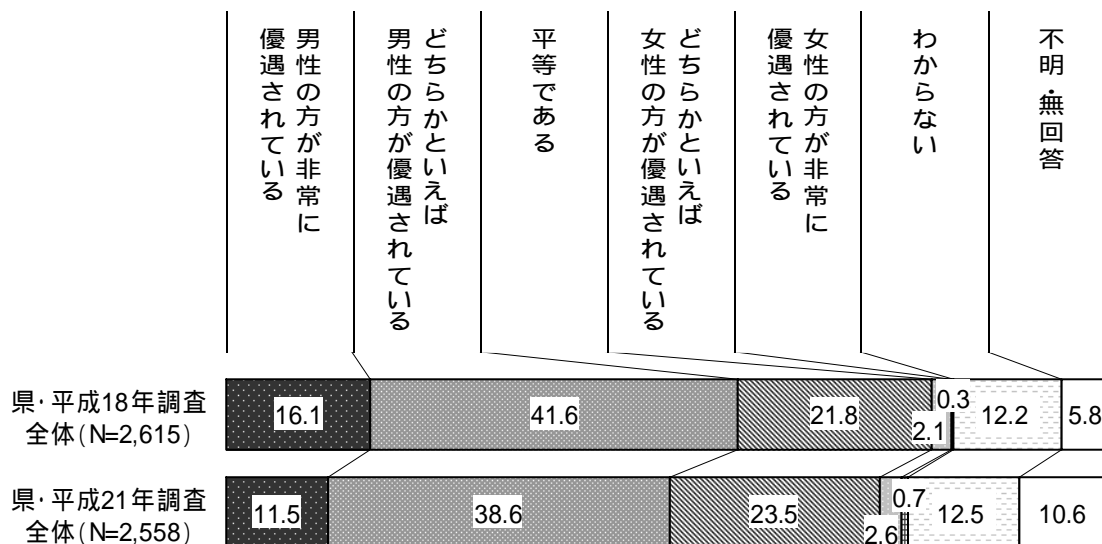
問 男女の地位評価 《法律や制度の上》 【全体】



国の平成12年調査、平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査と県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合を比較すると、国は平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返しているのに対して、県は平成12年から平成21年にかけて減少しています。

また、「平等」と答えた人の割合は国が平成14年から21年にかけて増加しており、県は平成16年から平成21年にかけて増加しています。

問1 男女の地位評価 《G 政治(政策決定)の場で》 【全体】

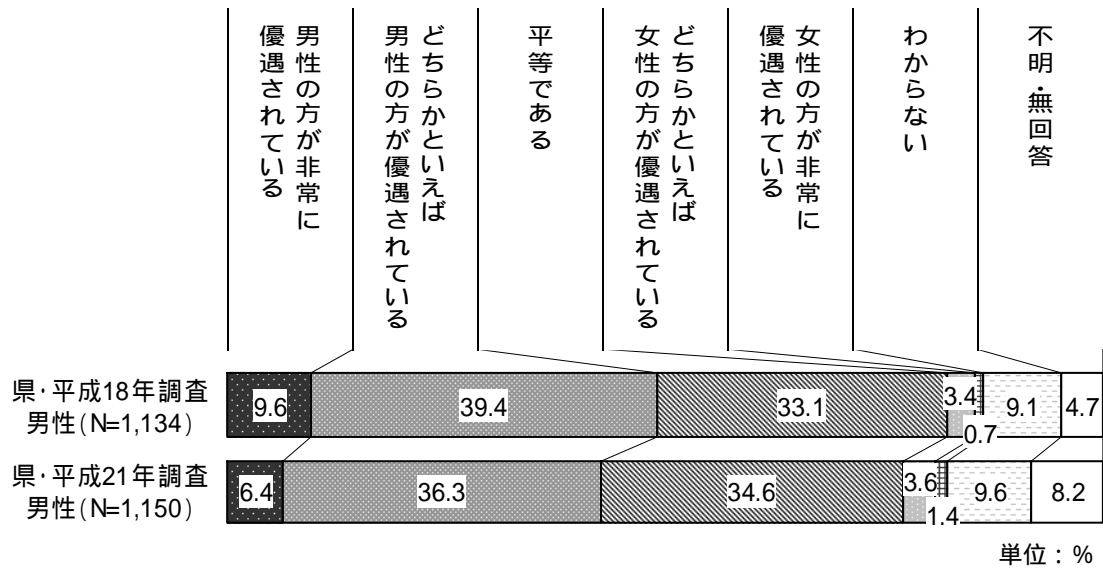


単位：%

県の平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

「平等である」、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加しています。

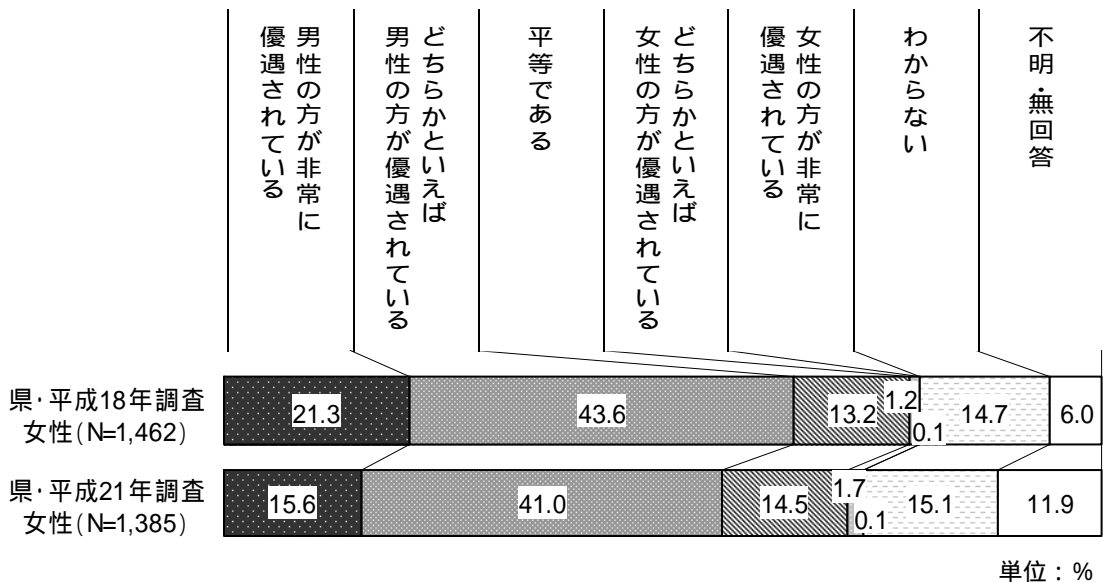
問1 男女の地位評価 《G 政治(政策決定)の場で》 【男性】



県の平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

「平等である」、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加しています。

問1 男女の地位評価 《G 政治(政策決定)の場で》 【女性】

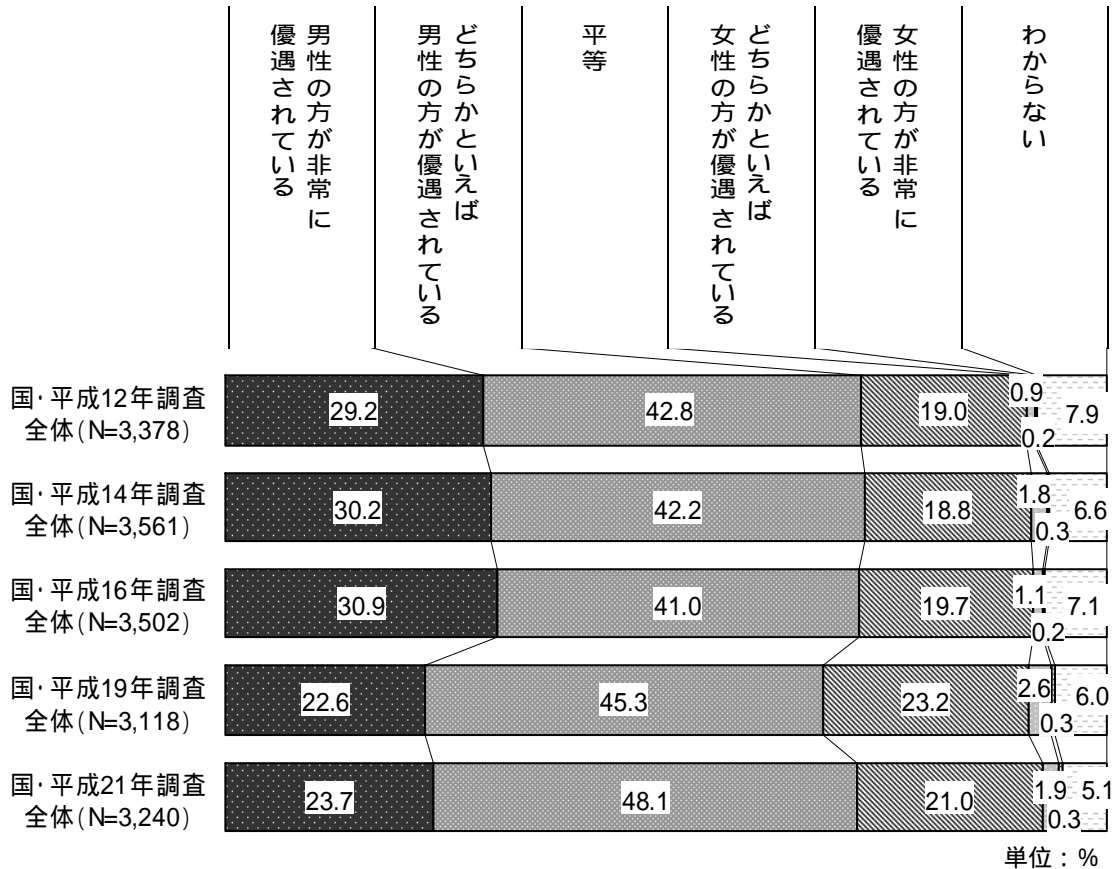


県の平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

「平等である」、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加しています。

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 男女の地位評価 《政治の場》 【全体】

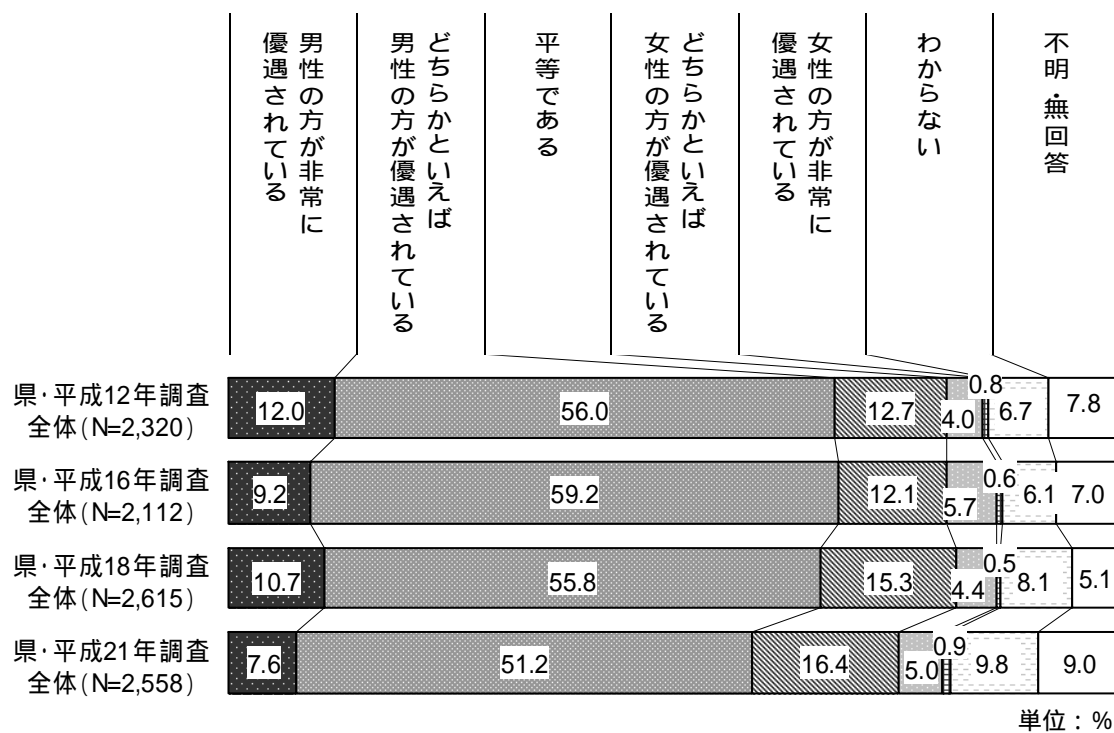


国の平成12年調査、平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査をみると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は7割前後を占め、平成16年から平成19年にかけて一旦減少したものの、平成21年には再び増加しています。

一方、県では、平成18年に比べ平成21年の方が『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合が減少しています。

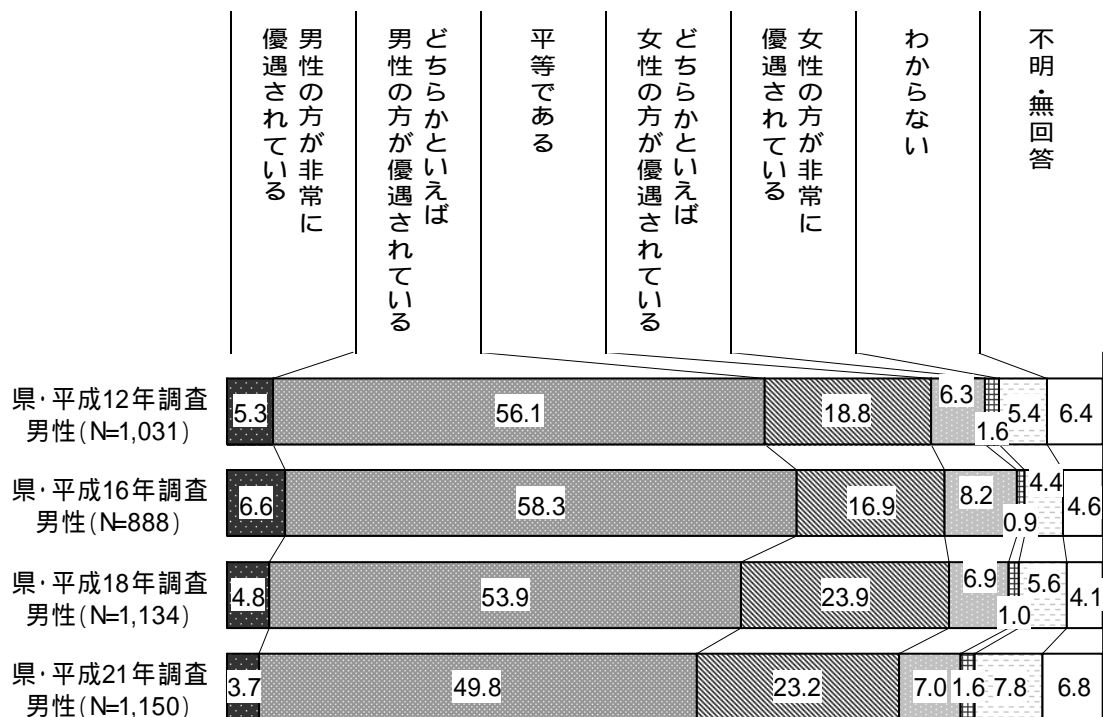
国の「平等」、『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。県は平成18年に比べ、平成21年の方が増加しています。

問1 男女の地位評価 《H 社会全体で》 【全体】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。
「平等である」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

問1 男女の地位評価 《H 社会全体で》 【男性】

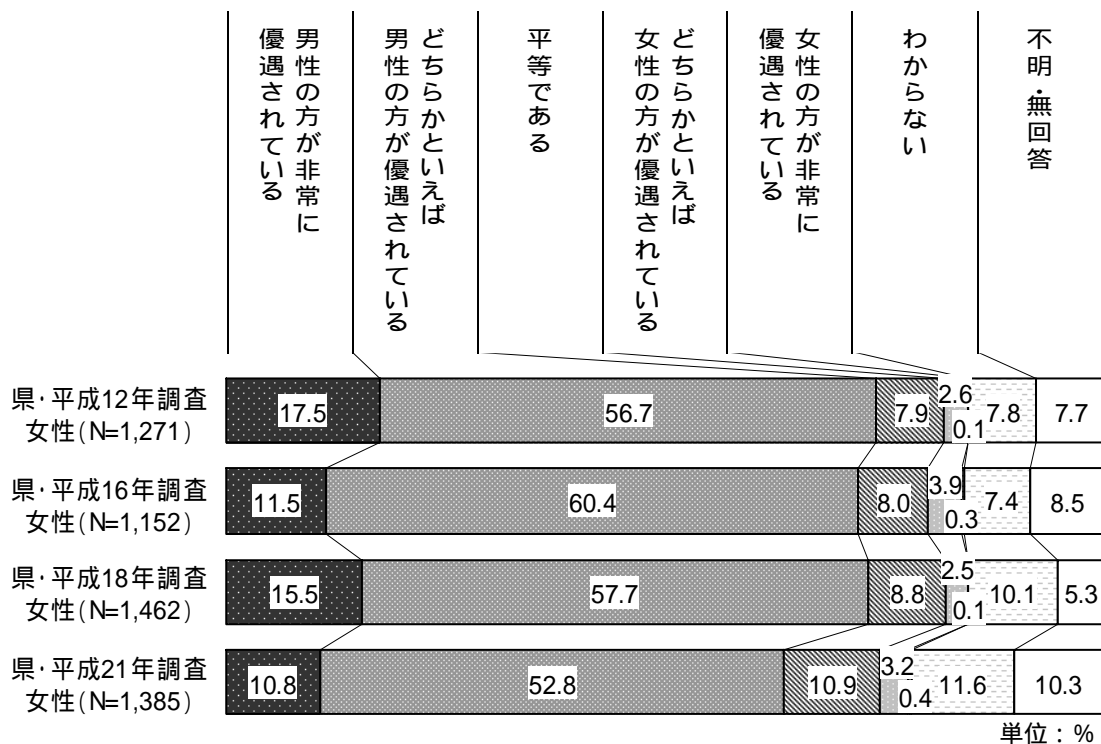


単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では若干減少しています。

問1 男女の地位評価 《H 社会全体で》 【女性】

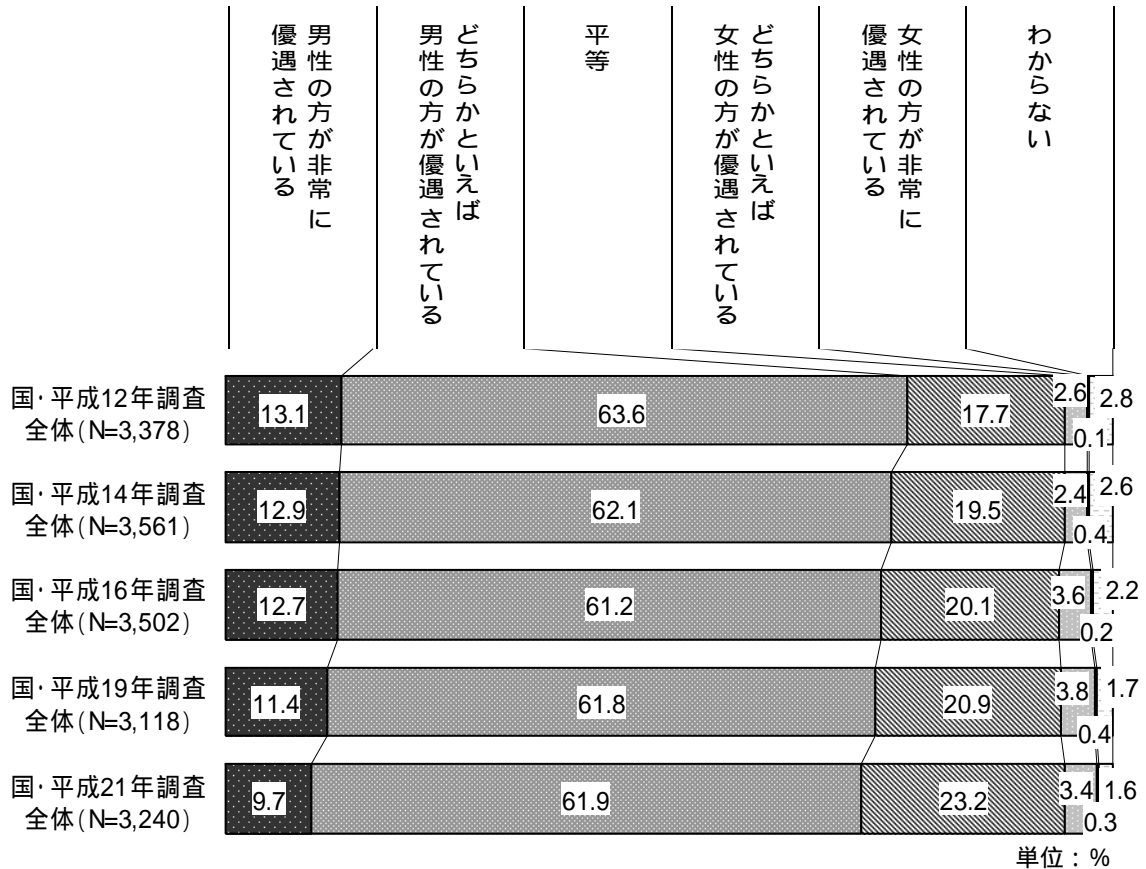


県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

「平等である」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 男女の地位評価 《社会全体で》 【全体】



国の平成12年調査、平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査をみると、国は平成12年から平成21年にかけて『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は減少しています。また、県も同様に平成16年から平成21年にかけて『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合は減少しています。

「平等」と答えた人の割合について、国は平成12年から平成21年にかけて増加しており、県も平成16年から平成21年にかけて増加しています。

(2)「男は仕事、女は家庭」といふ考え方について

【分析のまとめ】

県調査では性別役割分担意識に変化がみられるものの、性別や年代間で意識の違いがみられます。

「男は仕事、女は家庭」といふ考え方について、県調査では「同感する」と答えた人の割合は平成 16 年から平成 21 年にかけてやや増加しており、平成 21 年では 10.2%となっています。また『同感する』と答えた人の割合は 43.8%となっています。一方、『同感しない』と答えた人の割合については増減がみられるものの、平成 21 年では 49.0%となっています。

時系列変化をみると、平成 12 年では『同感する』と答えた人の割合が『同感しない』と答えた人の割合を上回っていましたが、平成 16 年から平成 21 年については『同感しない』と答えた人の割合が『同感する』と答えた人の割合を上回っています。

男女別にみると、男性は各年ともに『同感する』と答えた人の割合が高くなっているのに対して、女性は『同感しない』と答えた人の割合が高く、5割を超えており、年代別では年齢層が高い人の方が『同感する』の割合が高く、性別役割分担意識の違いがみられます。

結婚の有無別にみると、男性は『同感する』、『同感しない』と答えた人の割合はともに平成 12 年から平成 21 年にかけて増減を繰り返しており、既婚の男性は各年ともに『同感する』の割合が『同感しない』よりも高くなっています。未婚の男性は各年ともに『同感しない』の割合が『同感する』よりも高くなっており、結婚の有無によって意識の違いがあることがうかがえます。女性は既婚・未婚ともに『同感する』と答えた人の割合が年々増加傾向にあります。各年ともに『同感しない』の割合が『同感する』よりも高くなっています。

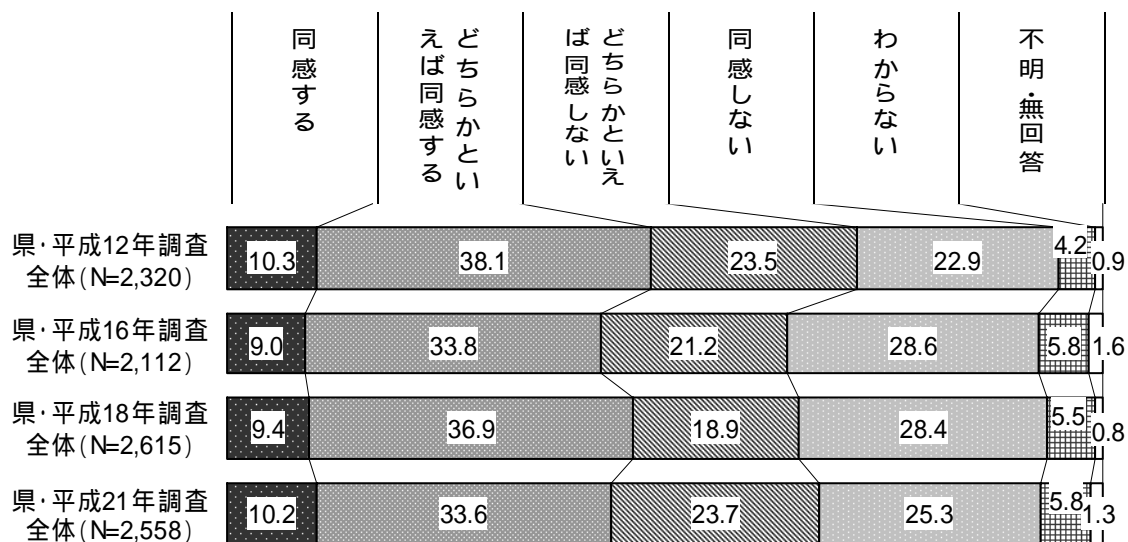
平成 12 年と平成 21 年の『同感する』と答えた人の割合を年齢別に比較すると、男性は各年齢層において平成 12 年よりも平成 21 年の方が低くなっています。女性は平成 12 年、平成 21 年で大きな変化がみられない状況です。一方、『同感しない』と答えた人の割合をみると、男性は平成 12 年よりも平成 21 年の方が高くなっています。また、平成 12 年の『同感しない』と答えた人の割合は年齢が高くなるとともに減少しており、50 歳代では 4割を切っているのに対して、平成 21 年では 50 歳までは 5割を超えて高く、60 歳以上についても平成 12 年より高くなっています。女性は 30 歳以上の平成 12 年、平成 21 年での大きな変化はみられませんが、20 歳代は平成 21 年の方が平成 12 年よりも 10.6 ポイント低くなっています。

『同感する』は、本来の選択肢の「同感する」と「どちらかといえば同感する」の割合を合計したものです。

『同感しない』は、「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで印をつけてください。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【全体】

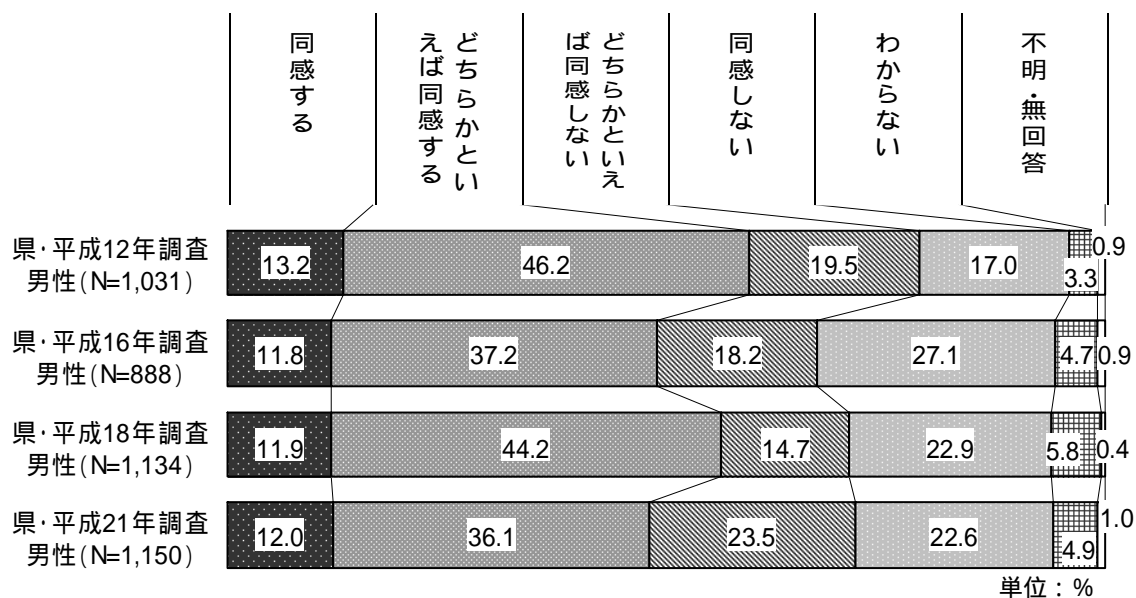


単位：%

県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

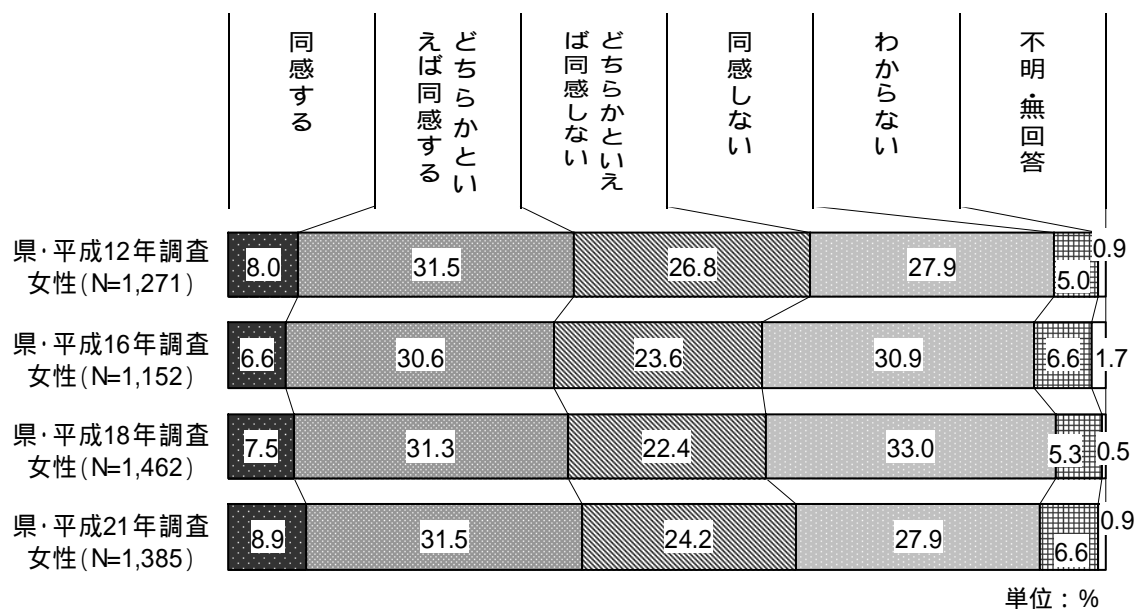
『同意しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性】



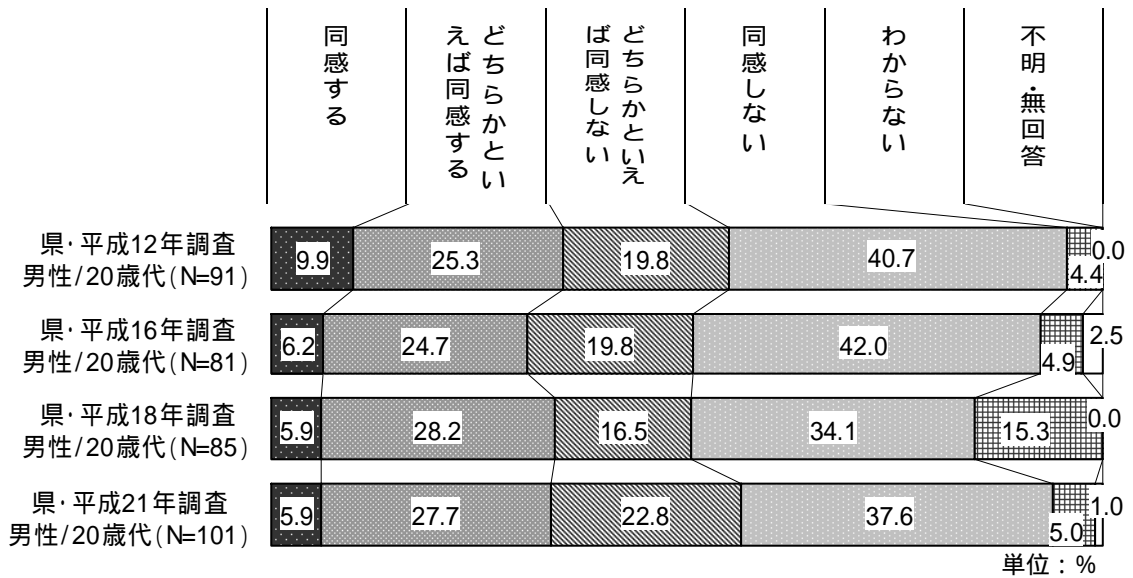
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『同意する』、『同意しない』とともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は減少、『同意しない』と答えた人の割合は増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性】



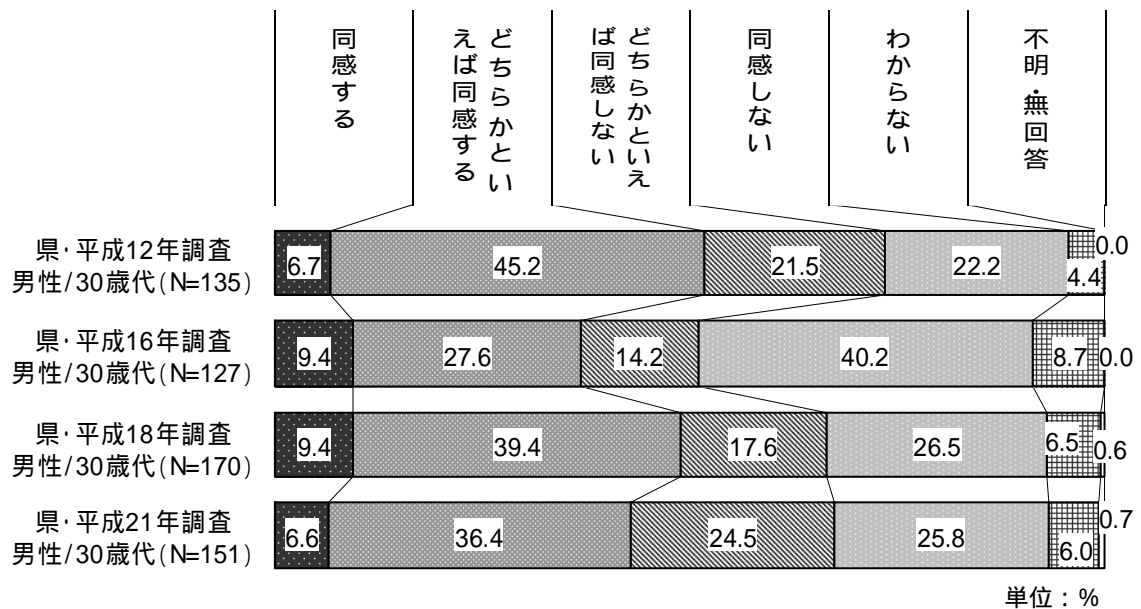
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『同意する』、『同意しない』とともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は増加、『同意しない』と答えた人の割合は減少しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/20歳代】



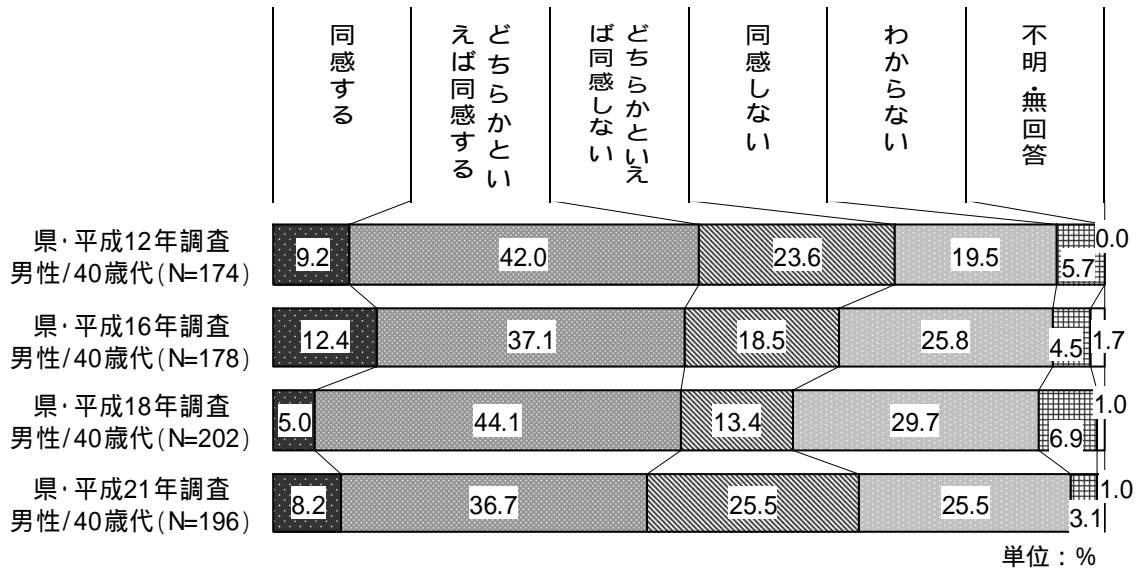
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/20歳代を比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は減少、『同意しない』と答えた人の割合は増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/30歳代】



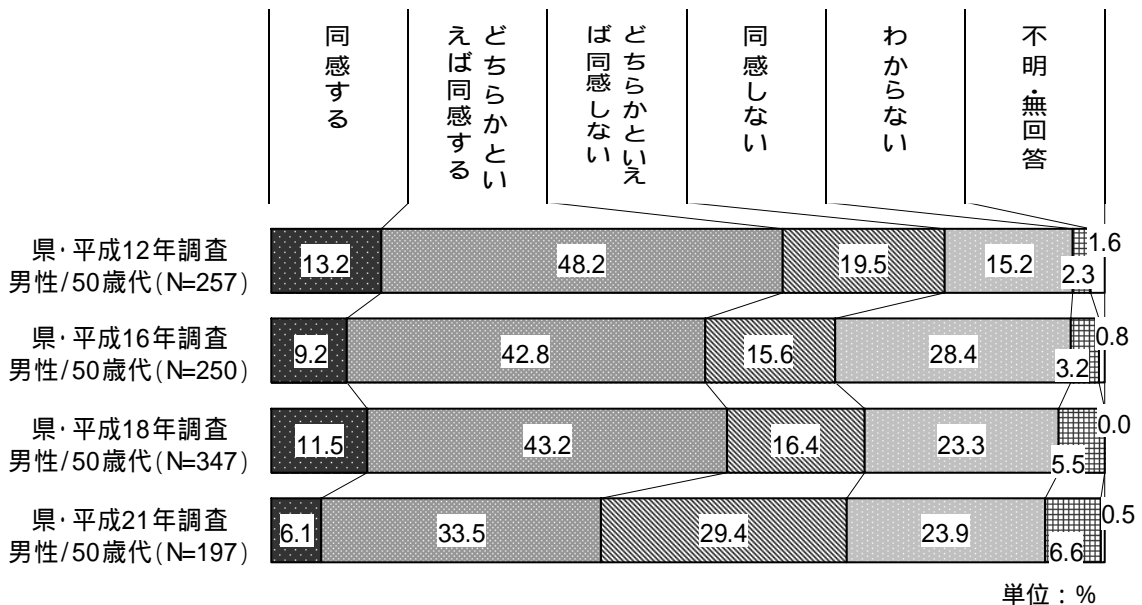
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/30歳代を比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は減少、『同意しない』と答えた人の割合は増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/40歳代】



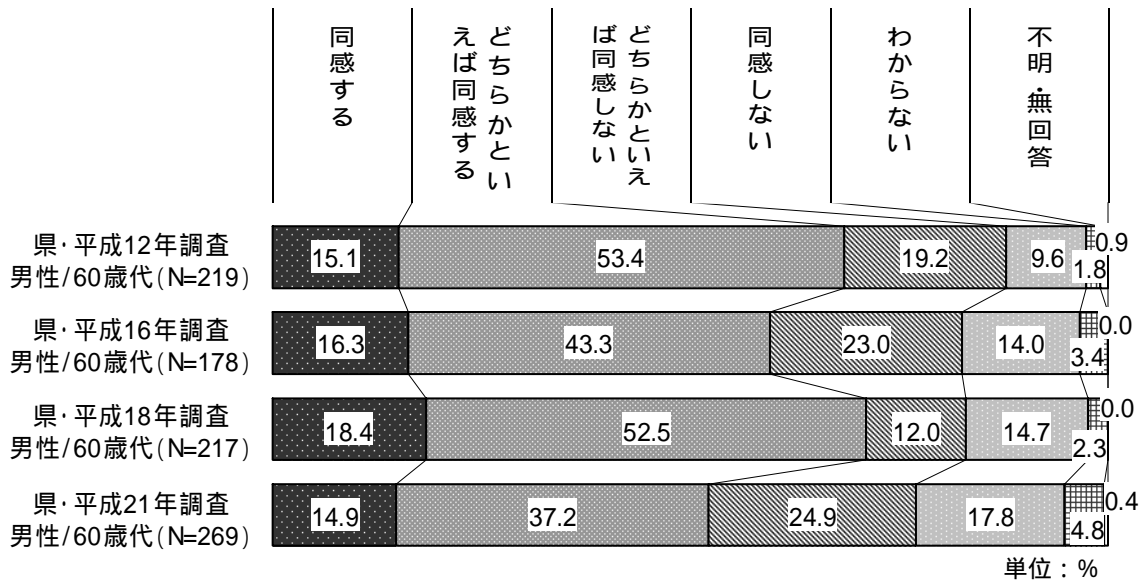
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/40歳代を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。『同意しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/50歳代】



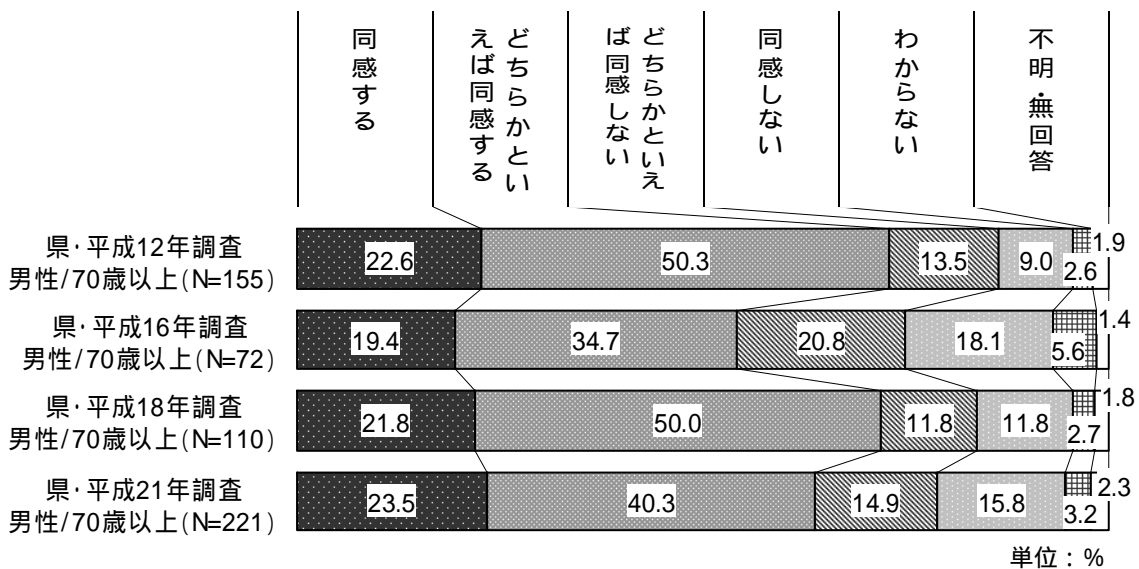
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/50歳代を比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、『同意する』と答えた人の割合は大きく減少し、『同意しない』と答えた人の割合は大きく増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/60歳代】



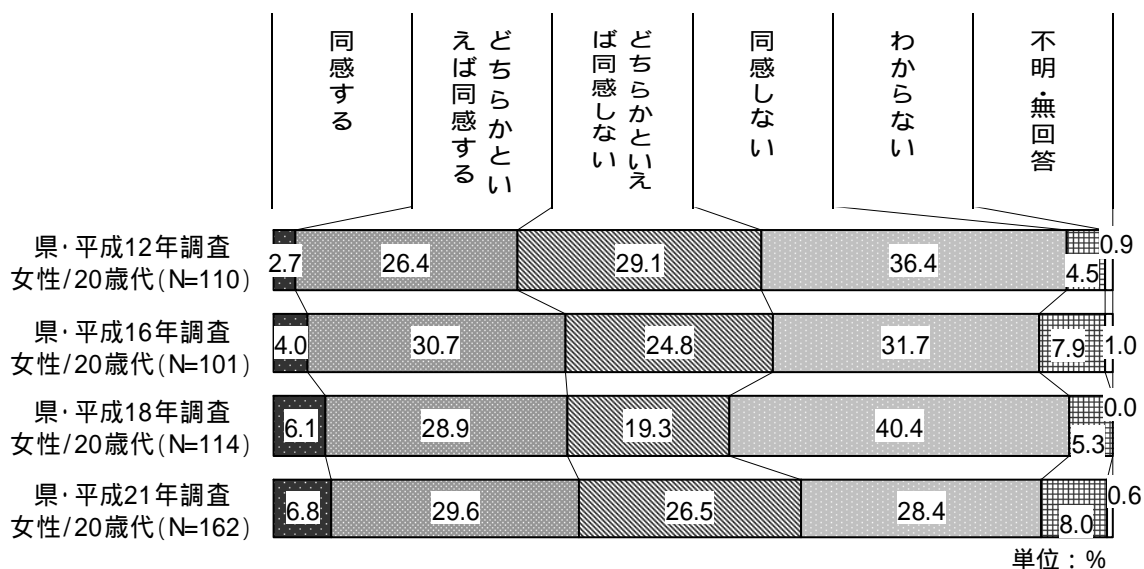
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/60歳代を比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、『同意する』と答えた人の割合は大きく減少し、『同意しない』と答えた人の割合は大きく増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/70歳以上】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/70歳以上を比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、『同意する』と答えた人の割合は減少し、『同意しない』と答えた人の割合は増加しています。

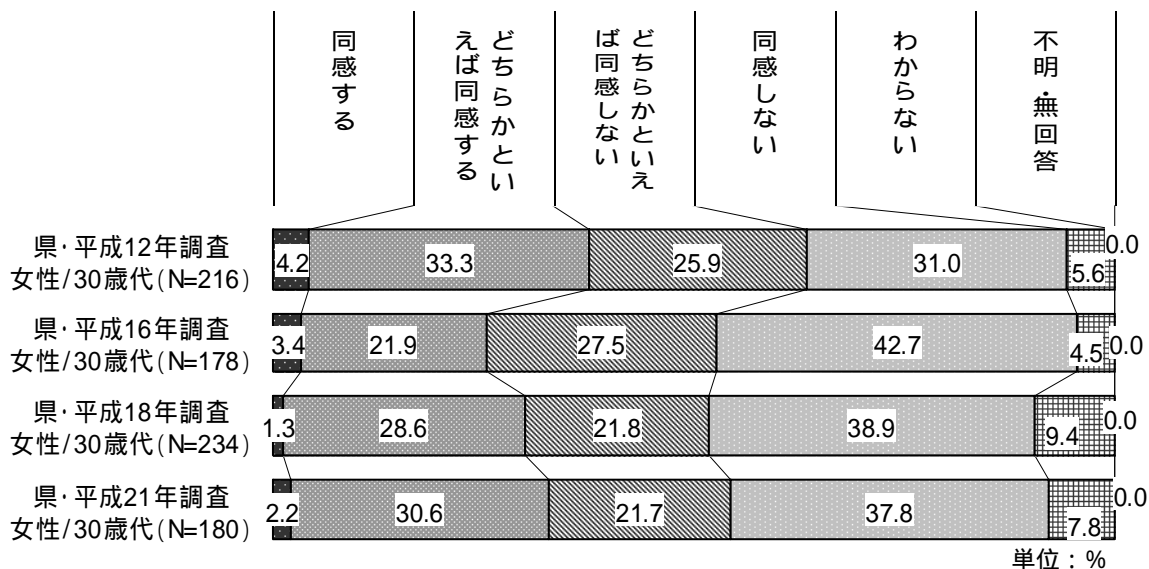
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/20歳代】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/20歳代を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

『同意しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

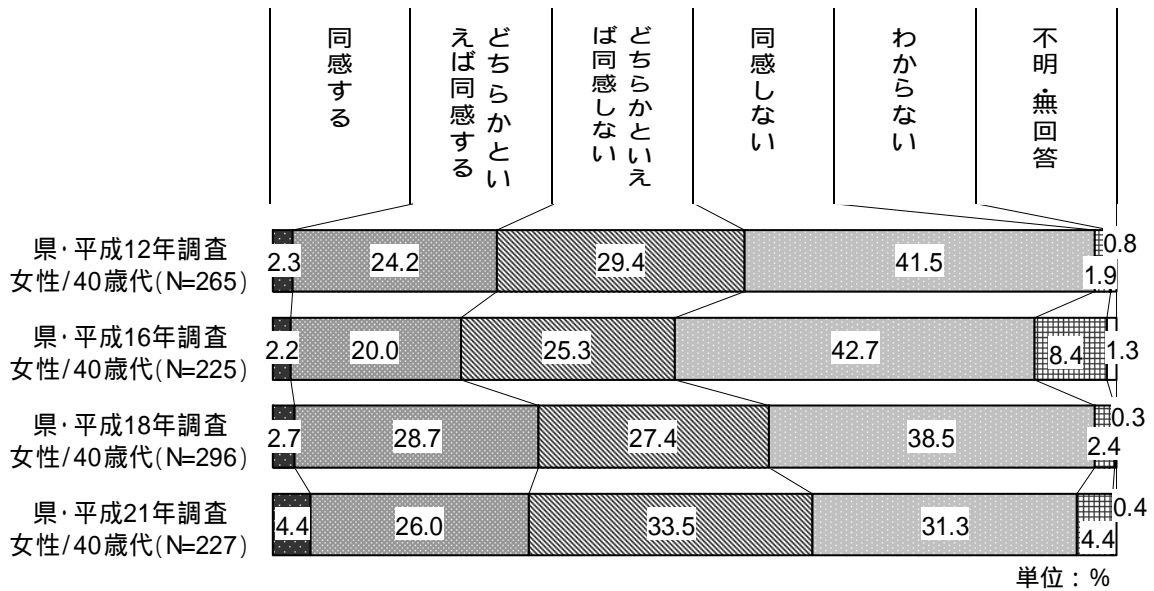
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/30歳代】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/30歳代を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

『同意しない』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

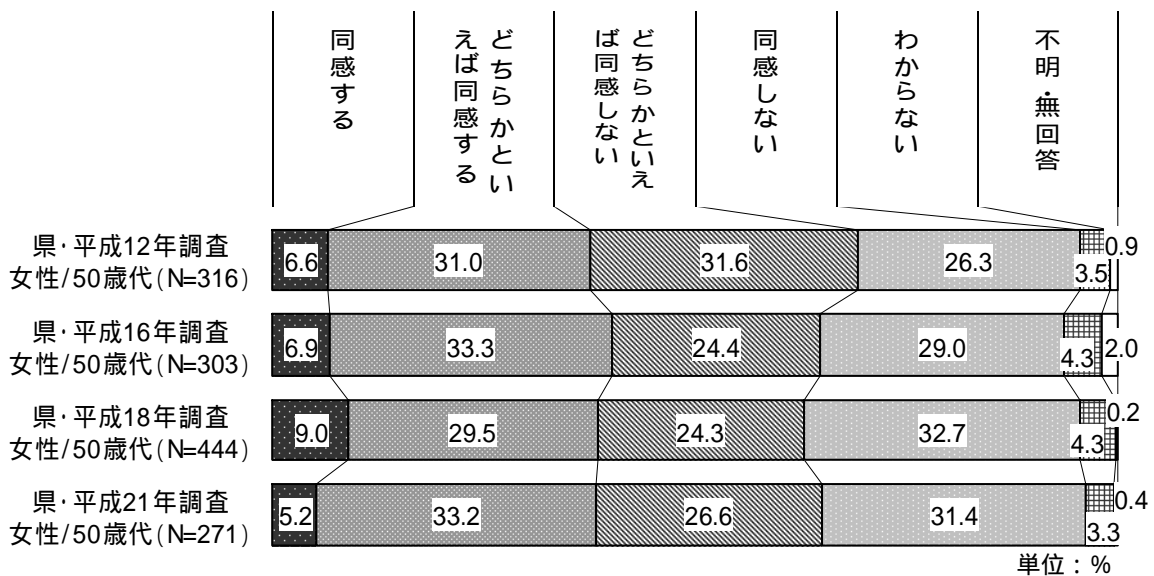
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/40歳代】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/40歳代を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

『同意しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

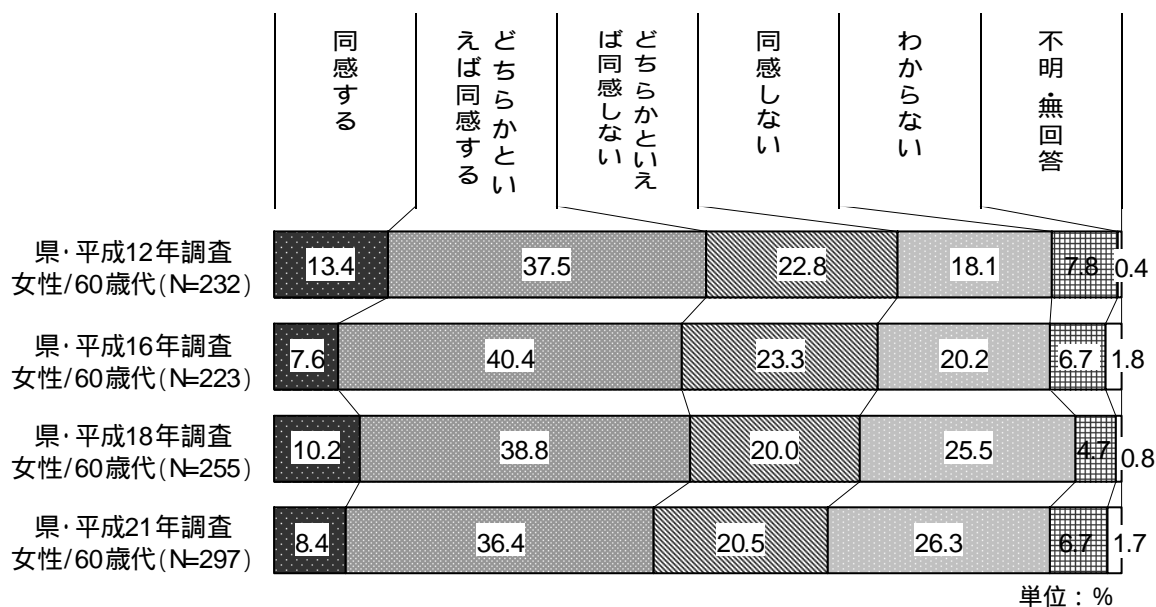
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/50歳代】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/50歳代を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

『同意しない』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

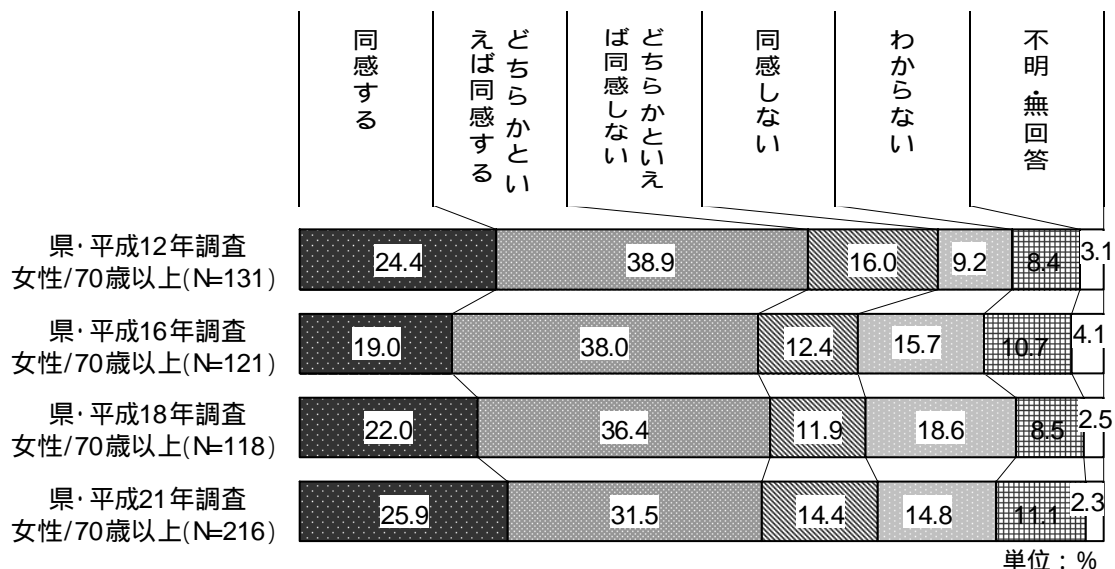
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/60歳代】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/60歳代を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

『同意しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

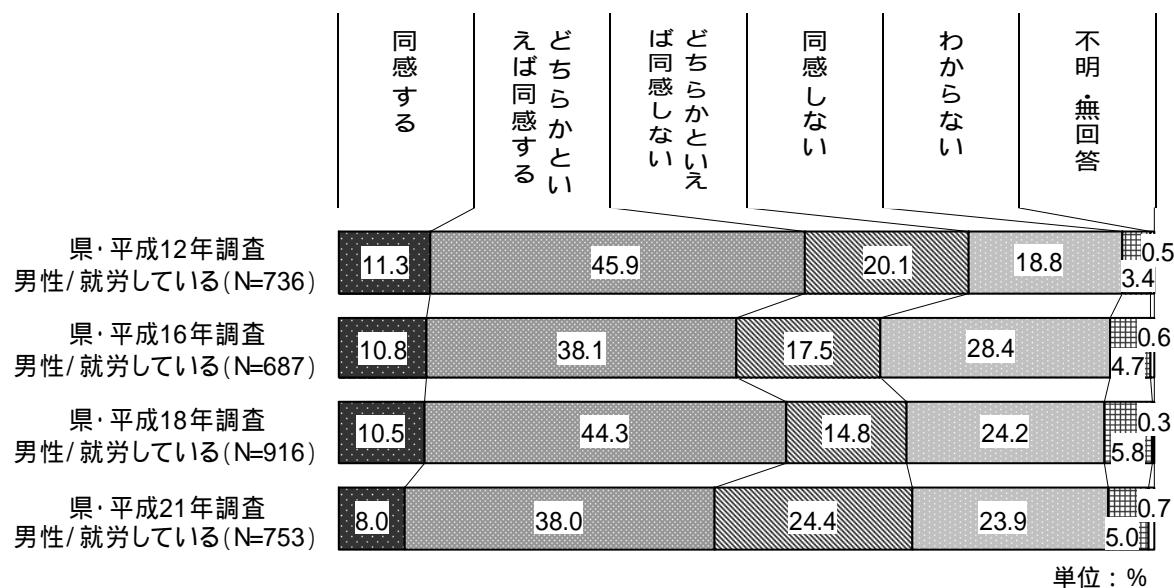
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/70歳以上】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/70歳以上を比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

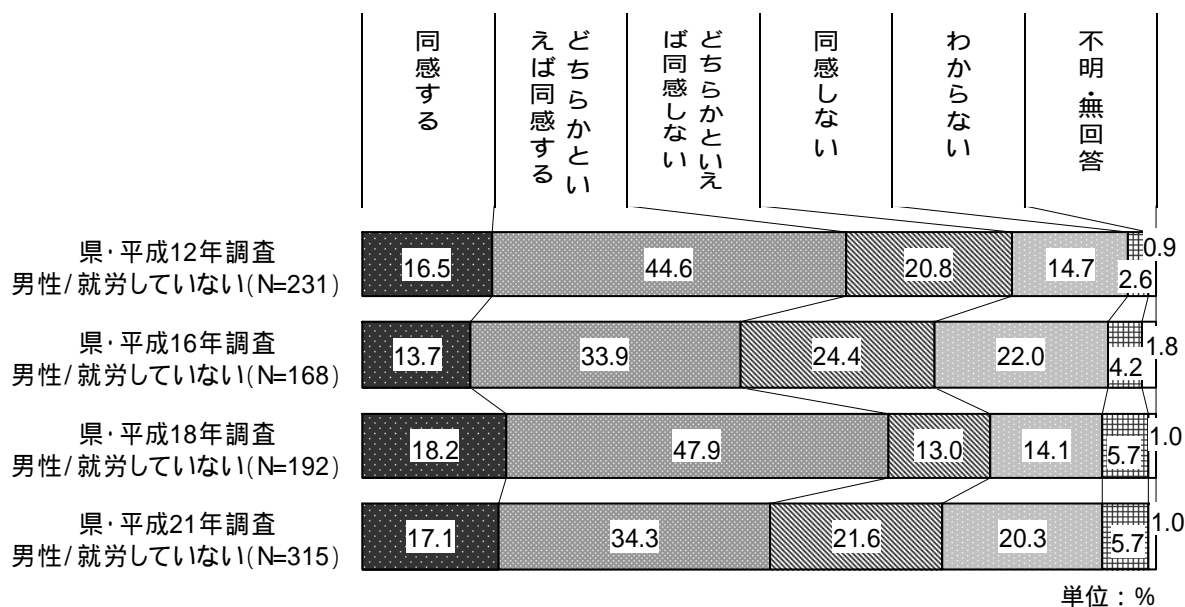
『同意しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけて増加していますが、平成21年では減少しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/就労している】



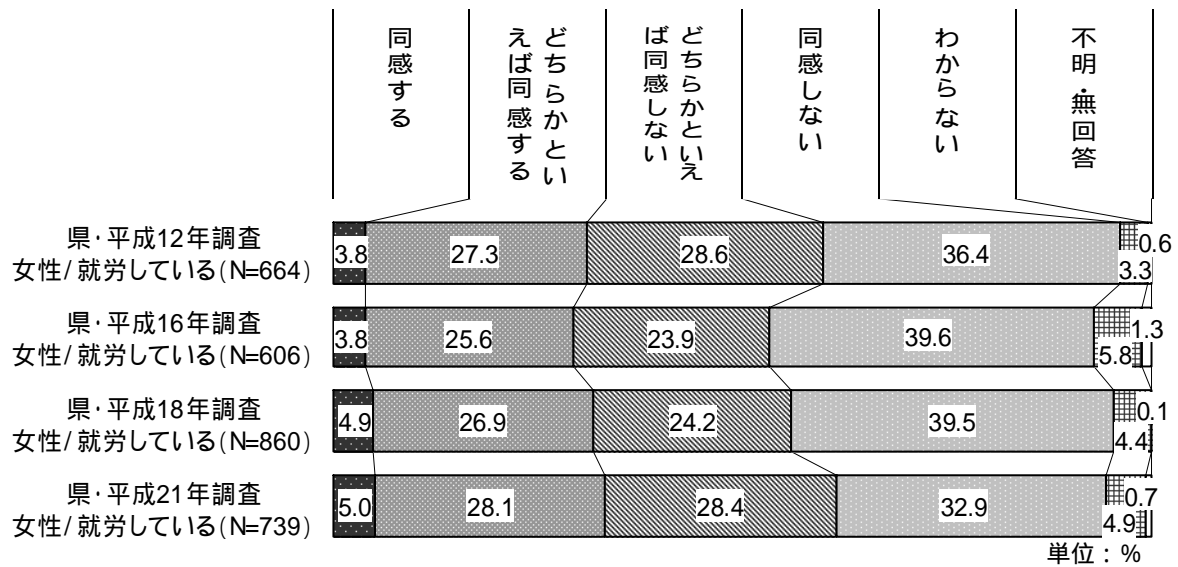
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/就労しているを比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は減少、『同意しない』と答えた人の割合は増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/就労していない】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/就労していないを比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は大きく減少、『同意しない』と答えた人の割合は大きく増加しています。

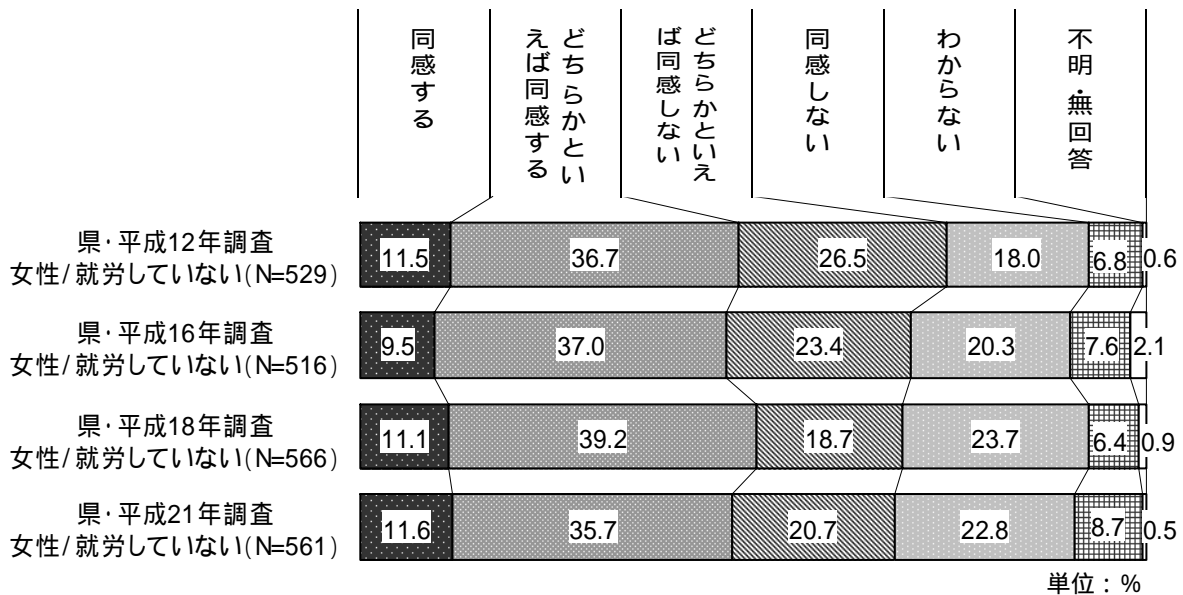
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/就労している】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/就労しているを比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

『同意しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では若干減少しています。

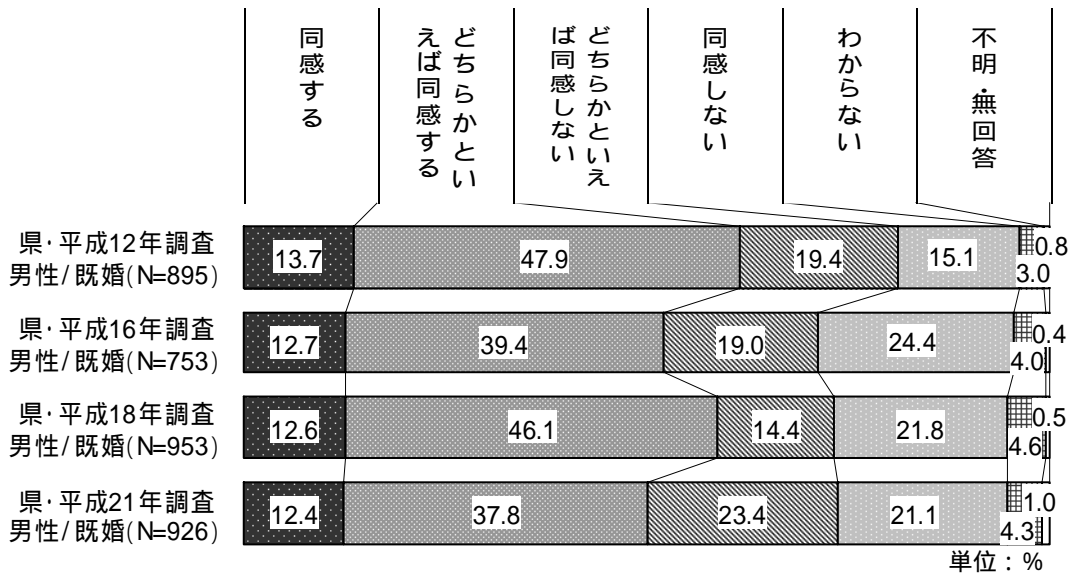
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/就労していない】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/就労していないを比較すると、『同意する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。

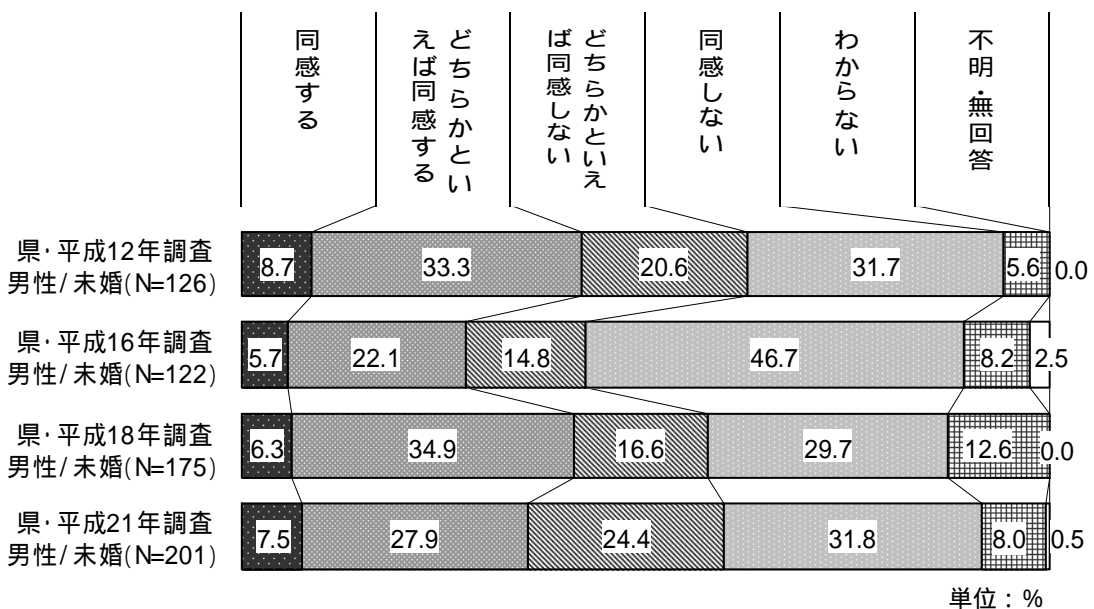
『同意しない』と答えた人の割合は平成12年から平成18年にかけて減少していますが、平成21年では増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/既婚】



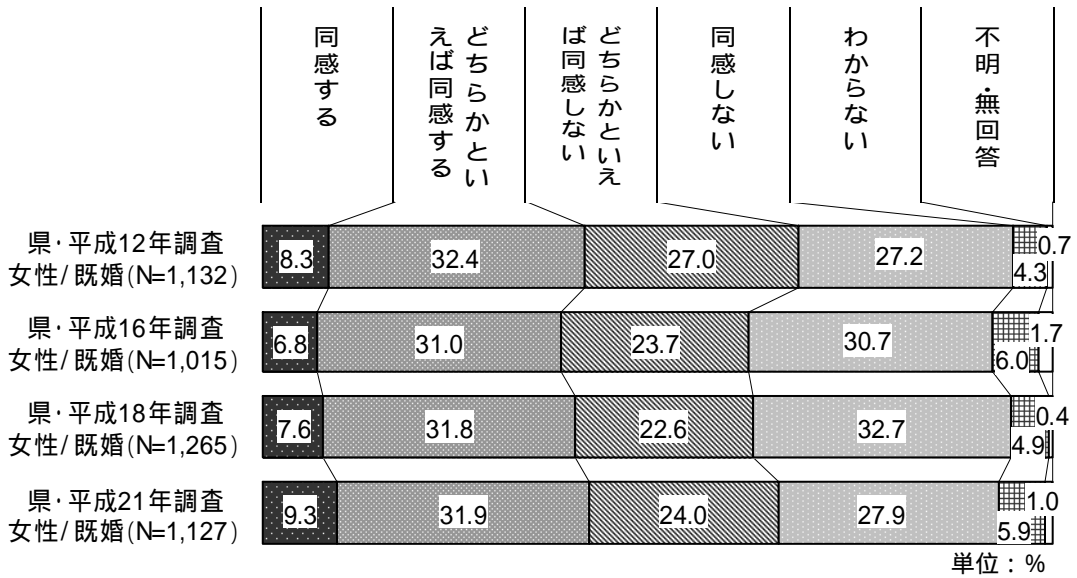
県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/既婚を比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は減少、『同意しない』と答えた人の割合は増加しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【男性/未婚】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性/未婚を比較すると、『同意する』、『同意しない』と答えた人の割合は、ともに平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返していますが、平成21年では『同意する』と答えた人の割合は減少、『同意しない』と答えた人の割合は増加しています。

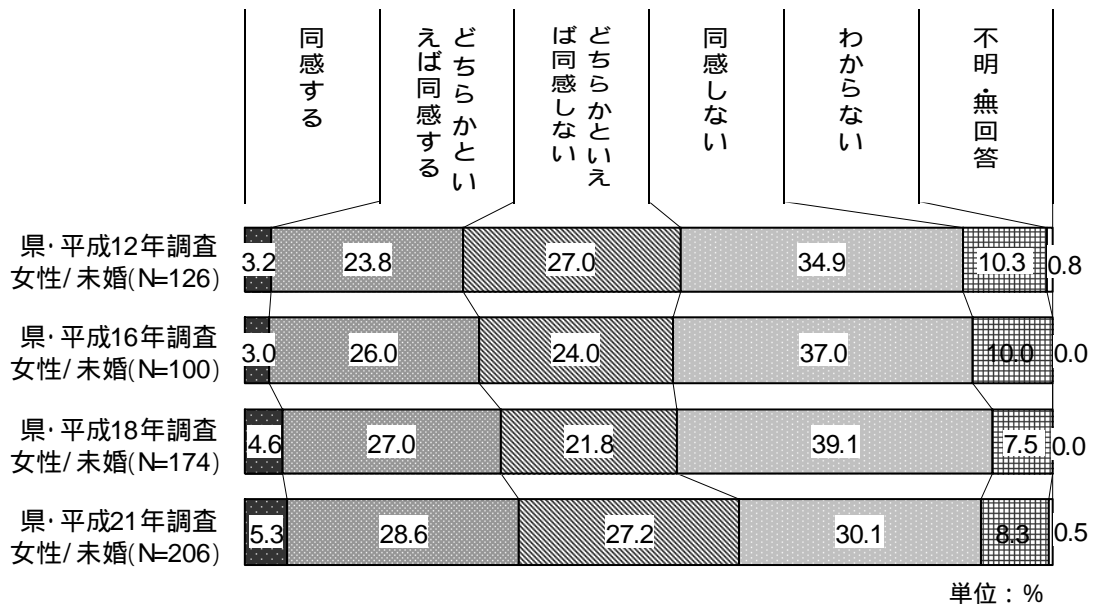
問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/既婚】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/既婚を比較すると、『同感する』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

『同感しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけて増加していますが、平成21年では減少しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【女性/未婚】

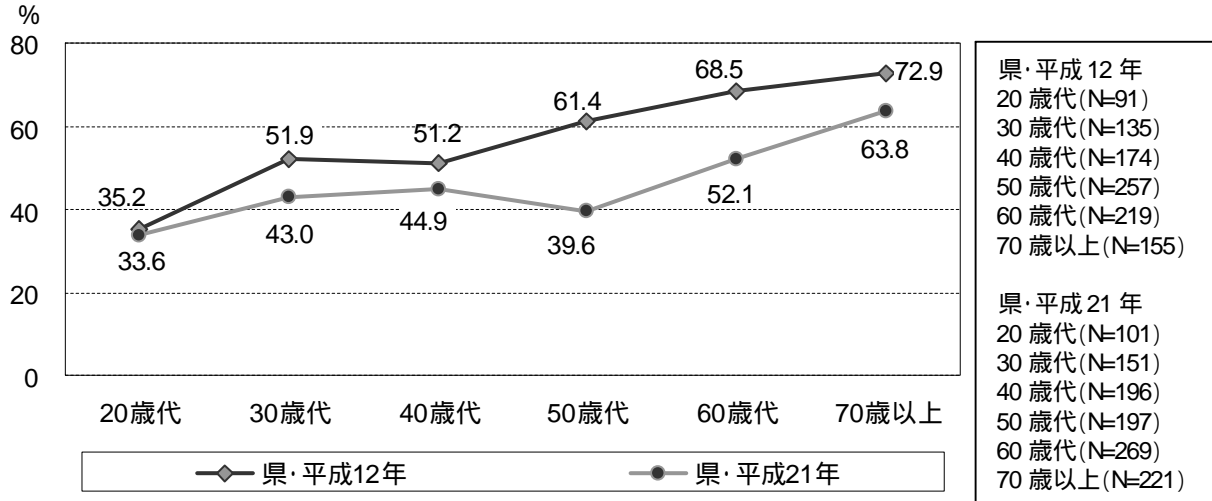


県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性/未婚を比較すると、『同感する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

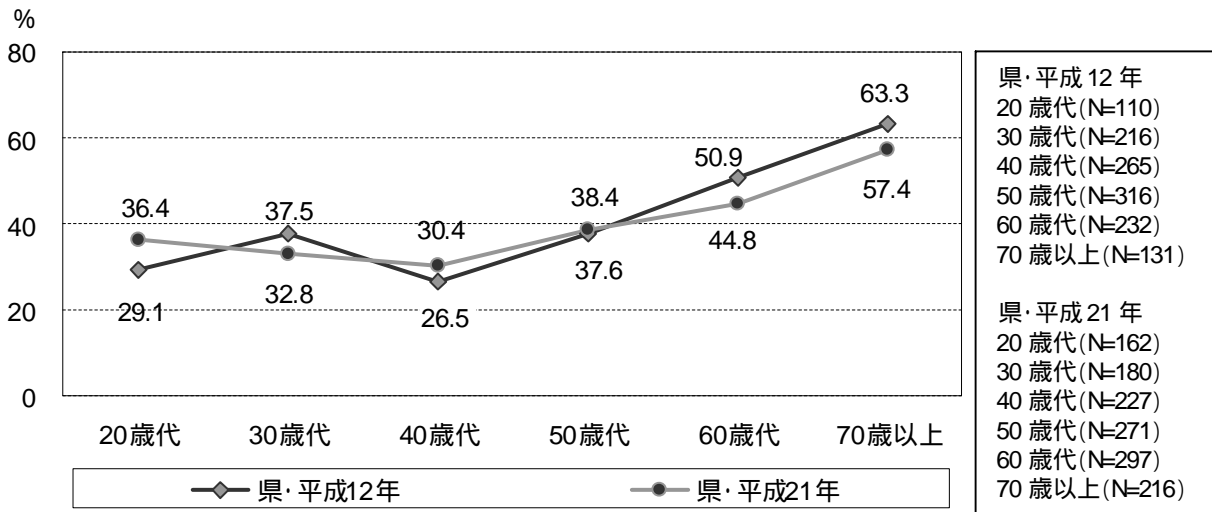
『同感しない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【『同感する』の年齢別の比較】

男性



女性

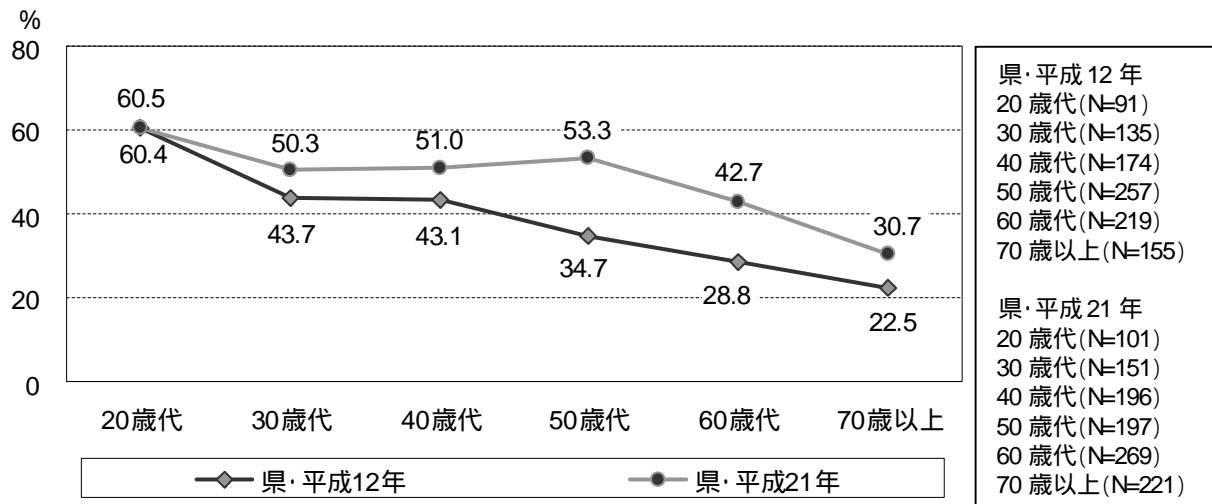


県の平成12年調査、平成21年調査の『同感する』と答えた人の割合を比較すると、全体的に、男女とも年齢が高くなるほど、割合が高くなる傾向にありますが、女性では、平成12年、平成21年ともに、40歳代で一旦割合が低くなっています。

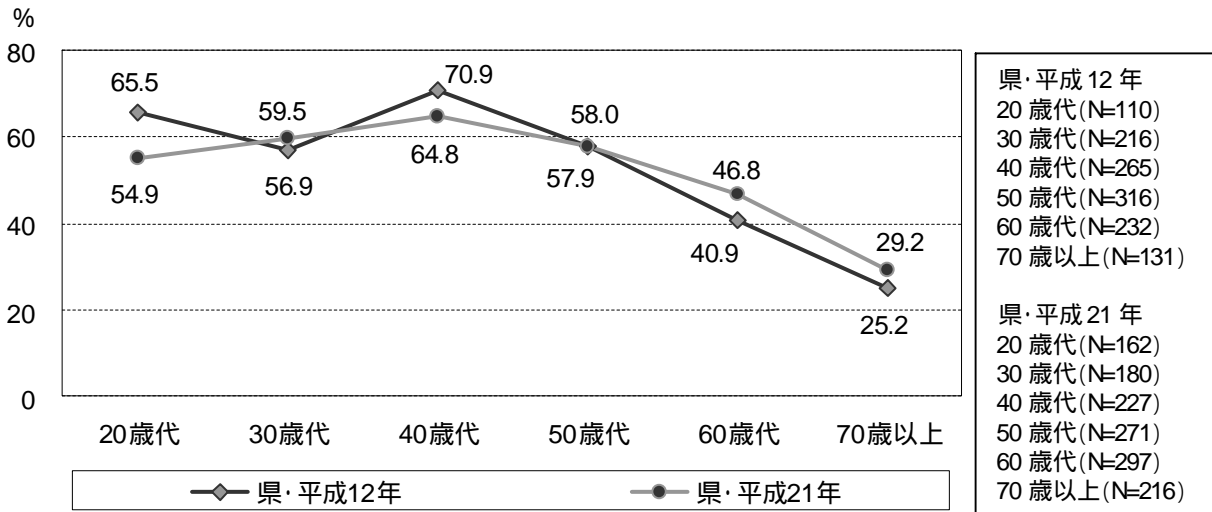
性別でみると、男性はすべての年齢区分について平成12年に比べ平成21年の方が割合が低くなっており、特に50歳代でその差が大きくなっています。女性は大きな差がみられないものの、年齢区分ごとの差も平成12年に比べ平成21年の方が緩やかになっています。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について 【『同感しない』の年齢別の比較】

男性



女性

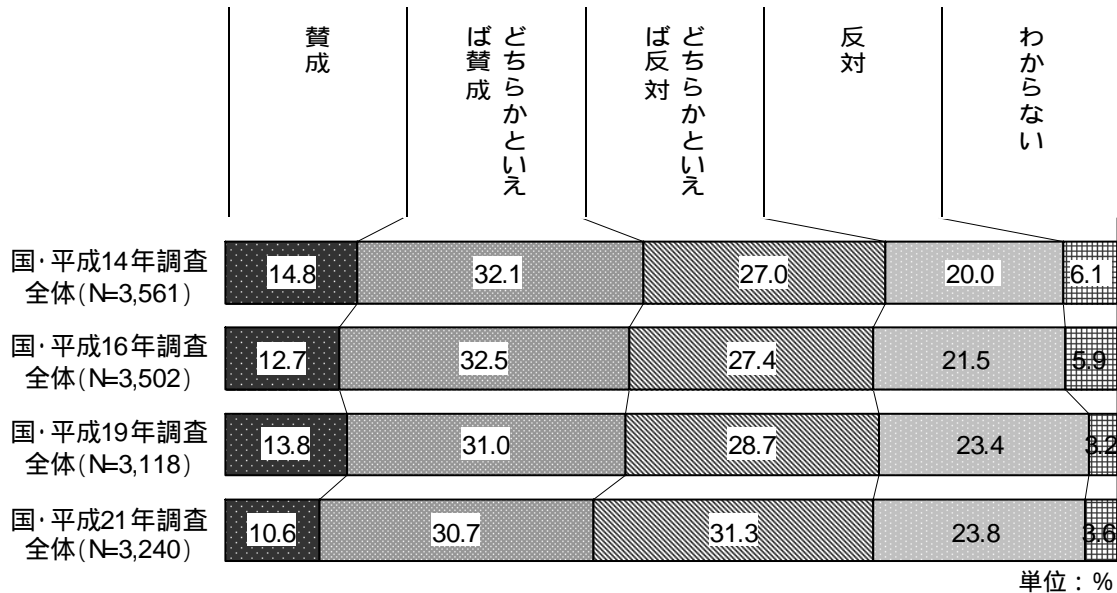


県の平成12年調査、平成21年調査の『同感しない』と答えた人の割合を比較すると、全体的に、男女とも年齢が高くなるほど、割合が低くなる傾向にあります。女性では、平成12年、平成21年ともに、40歳代で一旦割合が高くなっています。

性別でみると、男性は20歳代を除くすべての年齢区分について平成12年に比べ平成21年の方が割合が高くなっています。女性では、20歳代で、平成12年と平成21年の割合の差が最も大きく、平成12年に比べ平成21年の方が10ポイント以上低くなっています。

【参考】 男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである 【全体】



国の平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査を比較すると、各年ともに『反対』と答えた人の割合が『賛成』と答えた人の割合を上回っており、平成21年では55.1%となっています。県についても平成16年以降『同感しない』と答えた人の割合が『同感する』と答えた人の割合を上回っており、国と同様の傾向にあることがうかがえます。

時系列変化をみると、国では『賛成』と答えた人の割合は、平成14年から平成21年にかけて減少しているのに対して、県では『同感する』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では減少しています。また、国では『反対』と答えた人の割合は、平成14年から平成21年にかけて増加しているのに対して、県では『同感しない』と答えた人の割合が平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では増加しています。

『賛成』は、本来の選択肢の「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合を合計したものです。『反対』は、「どちらかといえば反対」と「反対」の割合を合計したものです。